

資料 1-4 平成 30 年度第二回合同検討会配布資料

平成 30 年度 西海市風力発電導入に向けた地域検討会
(第二回 合同検討会)

- ・日時：平成 30 年 10 月 29 日 (月) 12:10~14:10
- ・場所：崎戸中央公民館 (2階大集会室)

次 第

1. 開会あいさつ

2. 議事

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| (1) 環境調査結果報告 | 12:15~12:30 |
| ・景観調査結果について | |
| (2) 先進地視察結果について | 12:30~12:45 |
| ・福岡県北九州市視察について | |
| ・茨城県神栖市視察について | |
| (3) 検討会 | 12:45~14:00 |
| ・合意形成について | |
| ・環境保全について | |
| ・地域貢献について | |
| ・第二回中浦地区・江島地区検討会及び今後の取り組みについて | |

3. 閉会

- | | |
|-------|-------------|
| ・振り返り | 14:00~14:10 |
|-------|-------------|

【配布資料】

- | | |
|------|----------------------------|
| 資料 1 | 地域検討会委員名簿 |
| 資料 2 | 座席表 |
| 資料 3 | 景観調査結果 |
| 資料 4 | 先進地視察結果 |
| 資料 5 | 合意形成について |
| 資料 6 | 環境保全について |
| 資料 7 | 地域貢献について |
| 資料 8 | 第二回中浦地区・江ノ島地区及び今後の取り組みについて |

	区分	所属	役職	氏名	
検討会委員	学識経験者 ・有識者	長崎総合科学大学新技術創成研究所	特命教授	池上 国広	
		長崎大学環境科学部	教授	菊池 英弘	
		日本野鳥の会 長崎県支部 県希少野生動植物種モニタリング委員会	委員	谷口 秀樹	
	住民代表	中浦地区		行政区長	辻 道行
		中浦地区			岸浦 秀次
		中浦地区			中村 幹雄
		中浦地区			山下 銀河
		中浦地区			垣内 英利
		中浦地区			大串 一朗
		中浦地区			松永 勝之輔
		中浦地区			岸本 徹也
	農林漁業	西海市農業委員会		会長	岩崎 信一郎
		長崎南部森林組合 西海支所		技師	柄本 司
		長崎西彼農業協同組合 大瀬戸支店		支店長	北川 公明
	観光、商工、航路、金融等	NPO法人 西海市観光協会		事務局長	河野 哲朗
		西海市商工会		理事	前川 優也
		黒瀬建設(株)		課長	末永 良友
		(株)親和銀行 地域振興部		部長	麻生 隆宏
	西海市関係部局	商工観光物産課		課長	本村 真一
		環境政策課		課長	山口 和則
		農林課		課長	辻野 秀樹
		西海総合支所		総合支所長	崎谷 秀樹
				22名	
オブザーバー	県関係部局	長崎県産業労働部	課長	森田 孝明	
		長崎県産業労働部 新産業創造課	係長	小島 敬輝	
	発電事業者(陸上)	日本風力エネルギー株式会社	シニアマネージャー	川崎 正幹	
		日本風力エネルギー株式会社	マネージャー	反町 毅	
その他	株式会社西海クリエイティブカンパニー			宮里 賢史	
事務局	西海市	政策企画課	課長補佐	森下 直也	
			係長	松崎 信也	
	アジア航測株式会社	福岡支店 社会インフラ技術一課	課長	水口 拓	
				久保 龍志	
	長崎営業所			藤島 正行	
		経済産業省資源エネルギー庁 新エネルギー課	係長	酒井 啓範	

	区分	所属	役職	職・氏名	
検討会委員	学識経験者 ・有識者	長崎総合科学大学新技術創成研究所	特命教授	池上 国広	
		一般社団法人 海洋エネルギー漁業共生センター	理事	渋谷 正信	
		日本野鳥の会 長崎県支部 県希少野生動植物種モニタリング委員会	委員	谷口 秀樹	
	住民代表	江島東行政区	行政区長	宮崎 博章	
		江島西行政区	行政区長	高瀬 正吉	
		江島浜行政区	行政区長	渡辺 一男	
		江島公民館	館長	福富 幸男	
		西海大崎漁協（江島支所）	理事	柏木 世次	
		消防団第5分団	団長	田中 義一	
		青壮年部	部長	松本 英雄	
		江島公民館	主事	岩見 真一	
		漁友会	会長	宮崎 幹夫	
		江島小中学校	校長	藤井 達也	
		江島診療所	所長	長島 義斉	
		崎戸地区行政区長会	会長	福岡 昭和	
	平島行政区	代表区長	林 嘉幸		
	農林漁業	西海大崎漁業協同組合（崎戸支所）	理事	前崎 順康	
		西海大崎漁業協同組合（平島支所）	理事	森 剛	
		西海大崎漁業協同組合（本所）	代表理事組合長	小山 文雄	
		大瀬戸町漁業協同組合	代表理事組合長	竹嶋 巖	
	観光、商工、航路、金融等	崎戸商船株式会社	取締役	木原 直人	
		黒瀬建設株式会社	課長	末永 良友	
		株式会社親和銀行 地域振興部	部長	麻生 隆宏	
		長崎県中央釣船業協同組合	代表理事	山下 銀河	
	西海市 関係部局	情報交通課	課長	福田 龍浩	
		商工観光物産課	課長	本村 真一	
		環境政策課	課長	山口 和則	
		水産課	課長	岸下 輝信	
		島の暮らし支援室	室長	作中 修	
		崎戸総合支所	総合支所長	植田 智子	
				30名	
	オブザーバー	県関係部局	長崎県産業労働部	課長	森田 孝明
			長崎県産業労働部 新産業創造課	係長	小島 敬輝
発電事業者（洋上） その他		ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社 事業開発本部 洋上風力開発部	シニアスタッフ	三牧 夏実	
		NPO法人 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会	統括コーディネーター	松浦 正己	
		株式会社西海クリエイティブカンパニー	事務局長	高比良 実	
			宮里 賢史		
事務局	西海市	政策企画課	課長補佐	森下 直也	
			係長	松崎 信也	
	アジア航測株式会社	福岡支店 社会インフラ技術課	課長	水口 拓	
		長崎営業所		久保 龍志	
		藤島 正行			
		経済産業省資源エネルギー庁 新エネルギー課	係長	酒井 啓範	

平成 30 年度 西海市風力発電導入に向けた地域検討会 (第二回合同検討会)

座席表

NPO 法人 雪浦あんばんね
理事長
渡辺 督郎

長崎総合科学大学新技術創成研究所
池上 国広

国立研究開発法人
水産研究・教育機構
西海区水産研究所 資源生産部
部長
吉村 拓

漁友会 宮崎 幹夫	江島公民館審議会 (江島東行政区) 宮崎 博章		海洋エネルギー 漁業共生センター 渋谷 幸生	中浦地区 松永 勝之輔	事務局
平島行政区 林 嘉幸	江島公民館審議会 (江島浜行政区) 渡辺 一男		中浦地区 辻 道行	長崎県西彼農業 協同組合 大瀬戸支店 北川 公明	
西海大崎漁業 協同組合(崎戸支所) 前崎 順康	江島公民館審議会 (江島公民館) 福富 幸男		中浦地区 中村 幹雄	崎戸商船(株) 木原 直人	
西海大崎漁業 協同組合(平島支所) 森 剛	江島公民館審議会 (西海大崎漁協 江島支所) 柏木 世次		中浦地区 長崎県中央釣船業 協同組合 山下 銀河	黒瀬建設(株) 末永 良友	
西海大崎漁業 協同組合(本所) 小山 文雄	江島公民館審議会 (青壮年部) 松本 英雄		中浦地区 垣内 英利	(株)親和銀行 地域振興部 田中 一誠	事務局
西海市 島の暮らし支援室 作中 修	江島公民館審議会 (江島公民館) 岩見 眞一		中浦地区 大串 一朗	西海市 環境政策課 中村 文明	

--	--

小島 新産業創造課 敬輝	長崎県産業労働部 森田 孝明	長崎県産業労働部 原田 武	西海市 農林課	植田 智子	西海市 崎戸総合支所	宮原 孝志	西海市 水産課	福田 龍浩	西海市 情報交通課
--------------------	-------------------	------------------	---------	-------	------------	-------	---------	-------	-----------

--	--

反町 毅	日本風力エネルギー(株)	川崎 正幹	日本風力エネルギー(株)	宮里 賢史	西海クリエイティブカンパニー	高比良 実	NPO 法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会	松浦 正己	NPO 法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会	三牧 夏実	エナジー(株)	ジャパン・リニューアブル・
------	--------------	-------	--------------	-------	----------------	-------	--------------------------	-------	--------------------------	-------	---------	---------------

景観調査結果

～中浦地区・江島地区におけるフォトモンタージュの作成～

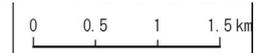
中浦地区景観調査結果：フォトモンタージュの作成



夏季調査（2018年7月14日実施）結果を用いて、風車高さ150mとし、フォトモンタージュを作成

※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である

- フォトモンタージュ作成風車位置
- 景観調査地点



中浦地区フォトモンタージュ結果:伊佐ノ浦公園

資料3

現況



フォトモンタージュ結果



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。 3

中浦地区フォトモンタージュ結果:伊佐ノ浦公園

資料3



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

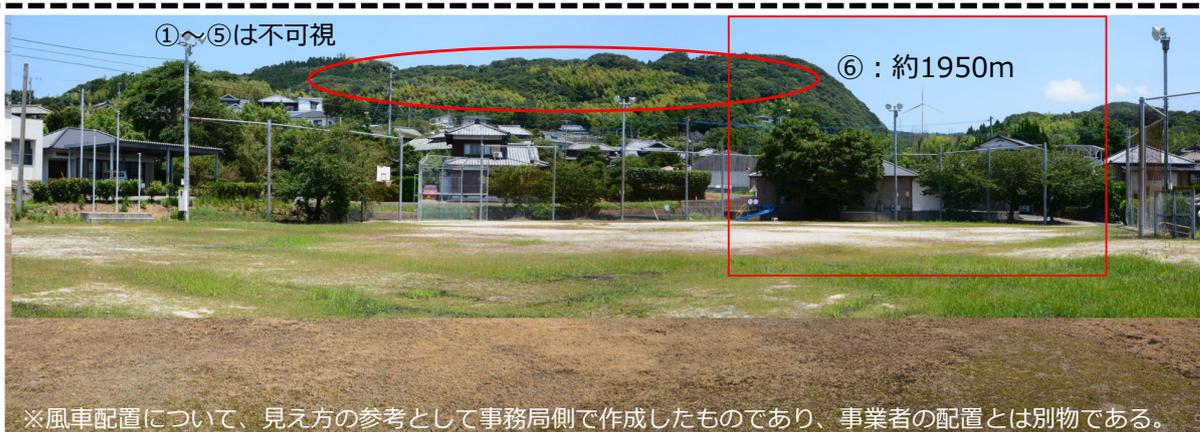
中浦地区フォトモンタージュ結果:中浦公民館

資料3

現況



フォトモンタージュ結果



中浦地区フォトモンタージュ結果:中浦公民館

資料3



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

中浦地区フォトモンタージュ結果:長尾城跡展望所

資料3

現況



フォトモンタージュ結果



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

7

中浦地区フォトモンタージュ結果:長尾城跡展望所

資料3

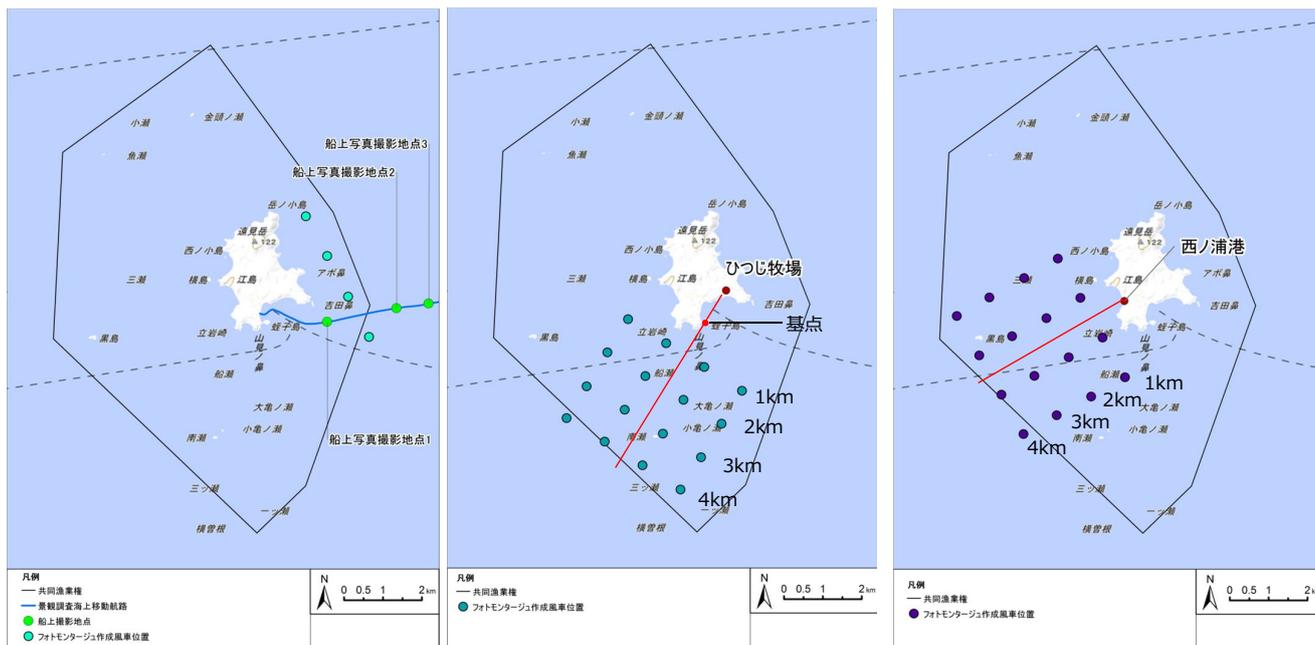


※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

8

江島地区景観調査結果：フォトモンタージュの作成

資料3



夏季調査（2018年7月12日・13日実施）結果を用いて、
 風車高さ：200m 風車間距離：約1kmとし、フォトモンタージュを作成
 ※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である

江島地区フォトモンタージュ結果:船上写真撮影地点1

資料3



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

江島地区フォトモンタージュ結果:船上写真撮影地点2

資料3



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

11

江島地区フォトモンタージュ結果:船上写真撮影地点3

資料3



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

12

江島地区フォトモンタージュ結果:ひつじ牧場

資料3

【現況】



1
k
B



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。13

江島地区フォトモンタージュ結果:ひつじ牧場

資料3

2
k
B



3
k
B



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。14

江島地区フォトモンタージュ結果:ひつじ牧場

資料3

【4km】



【1km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。 15

江島地区フォトモンタージュ結果:ひつじ牧場

資料3

【4km】



【1km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

江島地区フォトモンタージュ結果:西ノ浦港

資料3

【現況】



【1km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

17

江島地区フォトモンタージュ結果:西ノ浦港

資料3

【2km】



【3km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

18

江島地区フォトモンタージュ結果:西ノ浦港

資料3

【4km】



【1km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

江島地区フォトモンタージュ結果:西ノ浦港

資料3

【4km】



【1km】



※風車配置について、見え方の参考として事務局側で作成したものであり、事業者の配置とは別物である。

先進地視察結果

1.福岡県北九州市響灘地区

1) 実施概要

○実施日：平成 30 年 8 月 24 日（金）、25 日（土）

○参加者：（委員 11 名 事務局 6 名）

○概要

【8 月 24 日】

■ 響灘風力発電所等の施設見学



響灘風力発電所



響灘ウィンドエネルギー
リサーチパーク合同会社
風力発電機



株式会社北拓でのブレードの見学

■ 赤崎小学校教員の方との意見交換会 概要

・ 環境学習への利用について

今年から風力発電施設を環境学習に利用するようになり、北九州市エネルギー産業拠点化推進課に環境学習を実施していただいた。響灘地区にはエコタウンセンターや風力発電所、太陽光発電所がそろっており、環境問題に気軽に触れられる地域となっている。

・ 環境影響について

子供たちへ大気汚染や騒音等の影響が生じていることは無い。景観に対する保護者の意見として、「風力発電所が建設されれば意識が高まる」といった意見を聞いたことは有るが、環境影響に対する意見を聞いたことは無い。工事中の影響についても、もともと工業地帯であったため大型トラックは日ごろから通っており、事業の実施による影響は生じなかった。学校付近の道は狭く、大型トラックやトレーラーが通れるような道ではないため、子供たちの安全を危惧するような事も無かった。

・ 事業者と地域との係わりについて

北拓をはじめとする各事業者は、例えば赤崎小学校から事業内容の説明依頼があればすぐ行けるような体制を整えている。響灘地区の港湾を管理している北九州市から事業に対し、事業をする際には地元の意見を大切にしていきたいという話をしている。

【8月25日】

■次世代エネルギーパークの見学



■株式会社エヌエスウィンドパワーひびき及び日本ロバロ株式会社との意見交換会 概要

・環境影響について

響灘風力発電所は住宅から4km程度離れており、騒音等に対する苦情は現在も発生していない。日本ロバロの工場は3交代制で24時間稼働しており、10年経過するが、うるさい、気分が悪くなったという話は聞いたことが無い。

・事業者と地域との係わりについて

日本ロバロでは響灘地区に来てから、地元の高校や大学生に対しインターンシップを行っており、学校を卒業した方の採用も行っていた。エヌエスウィンドパワーひびき、日本ロバロともに地元の祭りに参加し地域との係わりは持っている。

・風力発電関連産業について

風力発電の関連製品は2万点にも及ぶが、新規に参入するとなった場合はメーカーの認証等が必要となり、仕様書が発注されてから採用されるまで4年程度かかることがある。地元の企業が参入する場合はまず自社で何ができるのか把握し、金銭面等のリスクを理解する必要がある。メンテナンスに関しては、メーカーが自社のメンテナンス会社を持っており、故障等が発生した場合はその会社に対応することがある。地域企業のメンテナンスへの参入を考える場合、そこを公募の条件にするという事は一つの方法として考えられる。

・事故等の発生について

響灘風力発電所では雷によって一度瞬停が発生し、風力発電機が止まったことがあるがそれ以外は特にない。なお雷が落ちた場合は稼働停止、強風や雷が発生した場合は、パトランプをつけアナウンスをしている。

・メディア等への出演について

響灘風力発電所には3年前NHKからメンテナンス風景の撮影依頼が来た。事業者として特にPRしているわけではないが、北九州市が映画等の誘致活動を行っており、映画やテレビなどの撮影が良く来る。北九州市ではベアリング工場や風力発電機の内部、関連工場等の見学ができるが、全国的にもこのような見学ができる場所はなかなかないため強みになっている。

2.茨城県神栖市

1) 実施概要

○実施日:平成 30 年 8 月 28 日 (火)、29 日 (水) ※江島・平島の委員は 30 日 (水) まで

○参加者:(委員 18 名 オブザーバー 2 名 事務局 6 名)

○概要

■ウィンド・パワーかみす洋上風力発電所の見学



会社説明会場から見る風力発電機



ウィンド・パワーかみす洋上風力発電所

■株式会社ウィンド・パワー会社説明及び質疑応答 概要

・環境影響について

事務所は直近の風力発電機から 100m ほどであり、冬にはシャドーフリッカーを感じるが数十分程度でありブラインドを下ろして対応している。また窓のサッシは一般家庭と同程度の物にし、事務所はあえて高床式にして風車の環境影響を身近に感じるようにしている。風力発電機の直下に行くと風切音等は聞こえるが、波やトラックの音と聞き分けるのも難しいこともある。建設時の杭打設については、1 箇所約 1 時間程度であった。20 分程度打ち込み、機械の調整を行い 20 分程度たったのち、再度 10 分程度打ち込んで完了となる。打設工事の際は音がやはり発生するが、土日は行わないようにしていた。

・事業者と漁業者・地域との係わりについて

運転状況等に関する説明については、関係者一堂に集まってもらう事は無く、漁協に対しては定期総会などの機会に訪問し説明している。なお現状漁業を自粛するエリアはなく、計画中のウインドファームについても自粛エリアはない。行政区から質問がある際はその都度対応しており、昨日も計画中のウインドファームに対する質問があり、事業の進捗説明を行ってきたところである。社員は全員地元に住んでおり、神栖市出身者は現在 3 名である。波崎柳川高校という普通高校に求人を出しているほか、玉造工業高校とはデュアルシステムという制度を作り、就業実習に生徒が参加する協定を結んでいる。

・現在計画されている洋上風力発電所（ウインドファーム）について

漁業組合やタンカー等の航路利用者、経産省、環境省、国交省等が参加する協議会が立ち上がっており説明を行っている。漁協からは風車の間隔をあげてほしいという要望があ

り、漁業者の方には工事着工の際には警戒船の協力をお願いしている。

■波崎漁業協同組合との意見交換会

・事業化の経緯について

1 基目は平成 17 年に水産庁の新漁村コミュニティ基盤整備事業として既存製氷工場の附帯施設として建設した。設備利用率は計画時は 20%程度であったが、現状は 30%となっており、売り上げで漁協施設の電力を 100%賄っている。2 号機については平成 24 年ごろから計画を始めた、今後建設する漁港関連施設（加工所）の附帯施設として建設費用 6 億円をすべて自費で賄い建設した。

・風力発電機のメンテナンスについて

風車担当の職員を 2 名配置し、日頃から目や耳で風車の状態を確認している。故障を見越して部品をストックするようにしている。ただし部品によっては注文してから何か月もかかるものもあるため、悪い部品は早めに交換し、外した部品は万が一に取っておくような対応をしている。

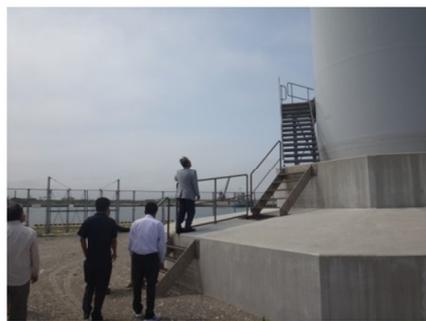
・洋上風力発電所との関係について

現在建設されている場所ではあまり操業していないためトラブルは発生していない。ただ、魚が風車周辺へ移動すれば近くまで船曳する漁業者もいる。現在計画されている場所は港湾区域であるため、県が許可を出すことになるが、そこには近隣の漁業者の同意が必要となる。現在 3 つの漁協があるが何年も事業者と話し合いを行ったと思われる。

・水産資源のブランド化について

水産加工物に風力発電機のシールを張る取り組みについて、加工組合が行った取り組みであり、売り上げが上がったかどうかは不明であるが、好評ではあった。ブランド化については近くに銚子漁港がありそちらの方がブランド力はかなり高い。高価なものであればブランド化もできるかもしれないが、波崎漁業協同組合で獲っている魚種はイワシ、サバ、アジ等単価が安いいため、ブランド化して高く売ろうという事には至っていない。

■JF はさき第 2 風力発電機の見学

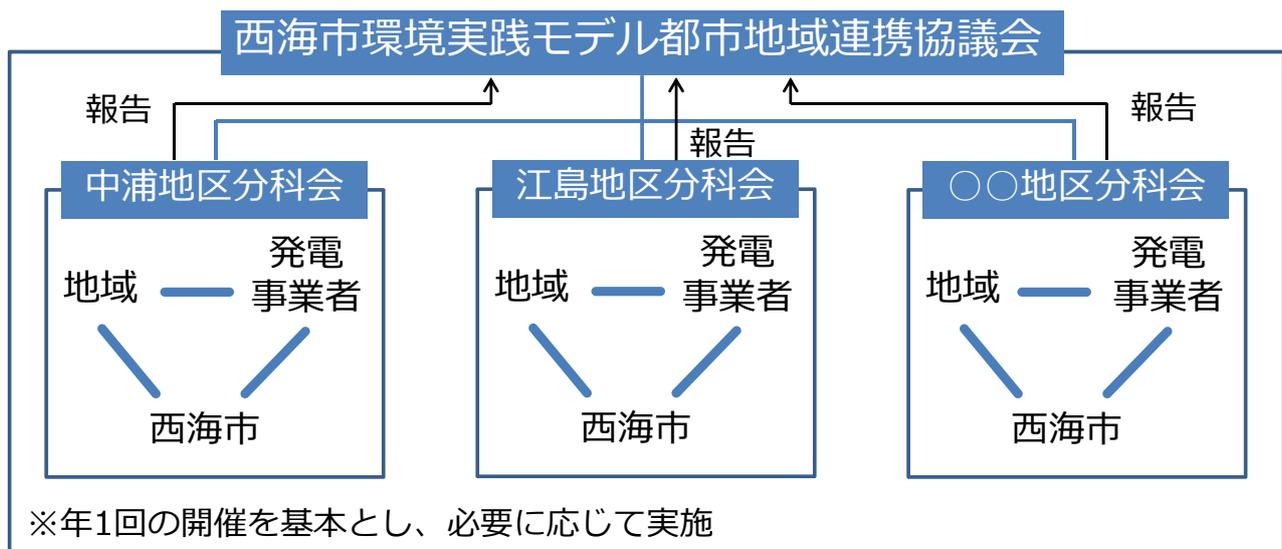


今後、中浦地区・江島地区において、事業者が風力発電事業を実施する際の要件として、以下内容について記載した取り決め事項を作成します。

- 地域等との合意形成に関する要件
- 環境影響に対する要件

上記内容について、今後中浦地区分科会・江島地区分科会を開催し、その中で協議等を実施します。

合意形成：地区分科会について（案）



■分科会での主な協議事項

- ・事業の進捗状況
規模、スケジュール等
- ・環境影響
調査、予測、評価結果
事後調査結果
- ・地域活性化
地域活性化策の検討
各主体の取組等
- ・危機管理体制

合意形成：取り決め事項（案）の内容について

資料5

○地域等との合意形成に関する要件（案）

—事業工程毎の取組等の内容—

※以下取組等においては地域検討会の検討結果についても参照

【工事実施前の取組等の内容】

- ・事業計画や環境影響（調査・予測結果、保全対策等）についての報告
- ・地域活性化策の計画や実施方法等について、地域住民や先行利用者等（以下、「地域」という。）、西海市との協議の実施
- ・これらの説明及び協議を踏まえた「地域」との合意の形成

【工事中の取組等の内容】

- ・工事の進捗状況や環境影響の状況（事後調査結果等）、苦情等の発生及び対応状況についての報告
- ・地域活性化策の進捗について地域や西海市との協議の実施

【風力発電供用時の取組等の内容】

- ・施設の稼働状況や環境影響の状況（事後調査結果等）、苦情などの発生及び対応状況についての報告
- ・地域活性化策の進捗について地域や西海市との協議の実施

【事業終了時】

- ・事業の終了に関する市長及び地区分科会に対する事前説明の実施

合意形成：取り決め事項（案）の内容について

資料5

○環境影響に対する要件（案）

- ・以下事項に関する地域の特性や事業特性を踏まえた調査、予測及び評価の必要性の検討

- 工事の実施による環境影響
- 風力発電機の稼働及び存在による環境影響

- ・予測の不確実性が大きいもの等に対する事後調査の実施
- ・調査、予測、評価及び事後調査における環境影響評価法や長崎県環境影響評価条例等への準拠
- ・地域検討会の検討結果の参照

環境保全について

～中浦地区における環境留意事項～

これまでの検討会での取り組みより中浦地区において挙げられた環境影響に関する意見は以下の通りである。

これらの意見及び「西海市風力発電等に係るゾーニング計画」における「事業推進エリアにおける留意事項」を踏まえ、中浦地区において事業を実施する場合には、次ページに示す「中浦地区における環境留意事項」を考慮することとする。

○これまで述べられた環境影響に対するご意見

【騒音】

- ・騒音、低周波音による影響が一番懸念されるが、そういった影響が考慮された事業であれば問題ないとする。
- ・今後の事業計画によるだろうが、風車が増えても騒音の影響は問題ないものなのか。騒音と風車の大きさや数との関係について具体的に教えていただきたい。
- ・風力発電機から発せられる低周波音にはどのような人体影響があるのか。
- ・伊佐ノ浦公園のコテージは夏休み等非常に利用客が多いが、候補エリアが非常に近く、騒音による影響が懸念される。施設や利用客に対する影響を検討していくべきではないか。

【水路】

- ・谷等で集めた水を各地へ配水している水路が存在する。事業の実施による影響が出ないか心配である。

【鳥類】

- ・西海市はアカハラダカの主要な渡りのルートとなっている。またツル類に関して、ほぼ全世界のナベツル1万羽程度は2月～3月にかけて鹿児島から北へ移動するがその際に西海市の上空を通る。西海市は自然豊かな場所であるので慎重に事業を進めていただきたい。

【景観】

- ・西海市観光協会では自然景観を売りにしているが、そこに人工物が建設されることに対する影響を懸念している。自然景観と調和できなければ問題であるが、新たな観光資源となりいい方向へ進めていければ良いと考える。

【風車の影（シャドーフリッカー）】

- ・影の影響（シャドーフリッカー）について考慮していただきたい。

中浦地区における環境留意事項

項目		留意すべき事項
騒音・低周波音、風車の影	住居	エリアから最近傍の住居は、北西側の約 600m に位置する。事業を検討する際に事業者は、近傍の住居に対して風車から発せられる騒音・低周波音や設置による影の影響について検討する必要がある。
	環境配慮施設 (学校、病院、福祉などの環境に配慮すべき施設)	エリアから最近傍の環境配慮施設は、南西約 1,900m に位置する。事業を検討する際に事業者は、風車から発せられる騒音・低周波音や設置の影について、環境配慮施設、畜産施設への影響について検討する必要がある。
	養鶏場・牛舎等の畜産施設	畜産施設は、エリア内に 1 箇所の種豚場が存在する。事業を検討する際に事業者は、施設および作業従事者に対して留意する必要がある。
	公園	エリア付近には伊佐ノ浦公園が存在する。事業を検討する際に事業者は、伊佐ノ浦公園の利用者に対して風車から発せられる騒音・低周波音や設置による影の影響について検討する必要がある。
水利用	水路	谷等で集めた水を各地へ配水している水路が存在する。事業を検討する際に事業者は、工事の実施や施設の設置による水路への影響について検討する必要がある。
動物	主要な渡り鳥のルート	西海市はアカハラダカの主要な渡りのルートとなっている。またツル類に関して、ほぼ全世界のナベヅル 1 万羽程度は 2 月～3 月にかけて鹿児島から北へ移動するがその際に西海市の上空を通る。調査で確認されたツル類の渡り状況は、飛行高度が地上から 160m 以上であり、風車の高さを 160m 未満にすれば影響は軽微であると考えられる。ただし、鳥類の渡り状況は、気象条件や渡り鳥個体の状態により、常に同一の経路や高度をとることは限らないため、事業を検討する際に事業者は、渡り鳥に関しての詳細な調査、予測及び評価を実施する必要がある。
植物	自然度の高い植物群落 (環境省 1/2.5 万現存植生図)	エリア内には、植生自然度 ^{※1} が 9 の植物群落が存在する。事業を検討する際に事業者は、土地改変による影響に留意する必要がある。 ※1 植物自然度とは、植物社会学的な観点から植物群落の自然性がどの程度残されているかを示す指標であり、植物群落ごとに 1～10 の 10 段階に分けられる。植物自然度が 9 や 10 の植物群落は、自然性が多く残っていて、重要な植物群落として扱われることが多い。
景観	主要な眺望点	エリア周辺には、長尾城跡や中浦ジュリアン記念公園などの眺望点が存在する。事業を検討する際に事業者は、これら以外の眺望点にも十分留意し、設置する風車に対して、各眺望点からの視認可能性、眺望特性(主要な眺望方向、景観要素など)、支障の程度を確認し、支障の程度に応じた配慮を検討する必要がある。
	眺望景観	

注「エリア」：西海市風力発電等に係るゾーニング計画の「事業推進エリア(中浦地区)」

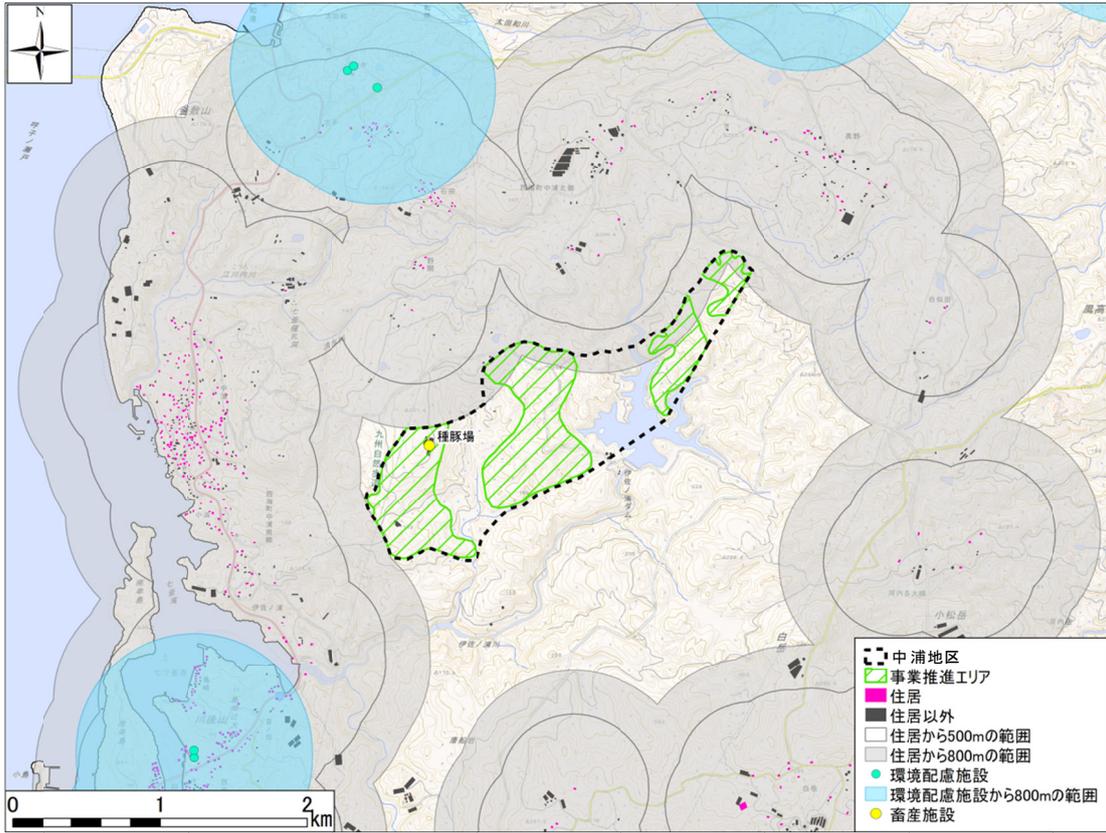
※ …新たに追加した内容

中浦地区における環境留意事項

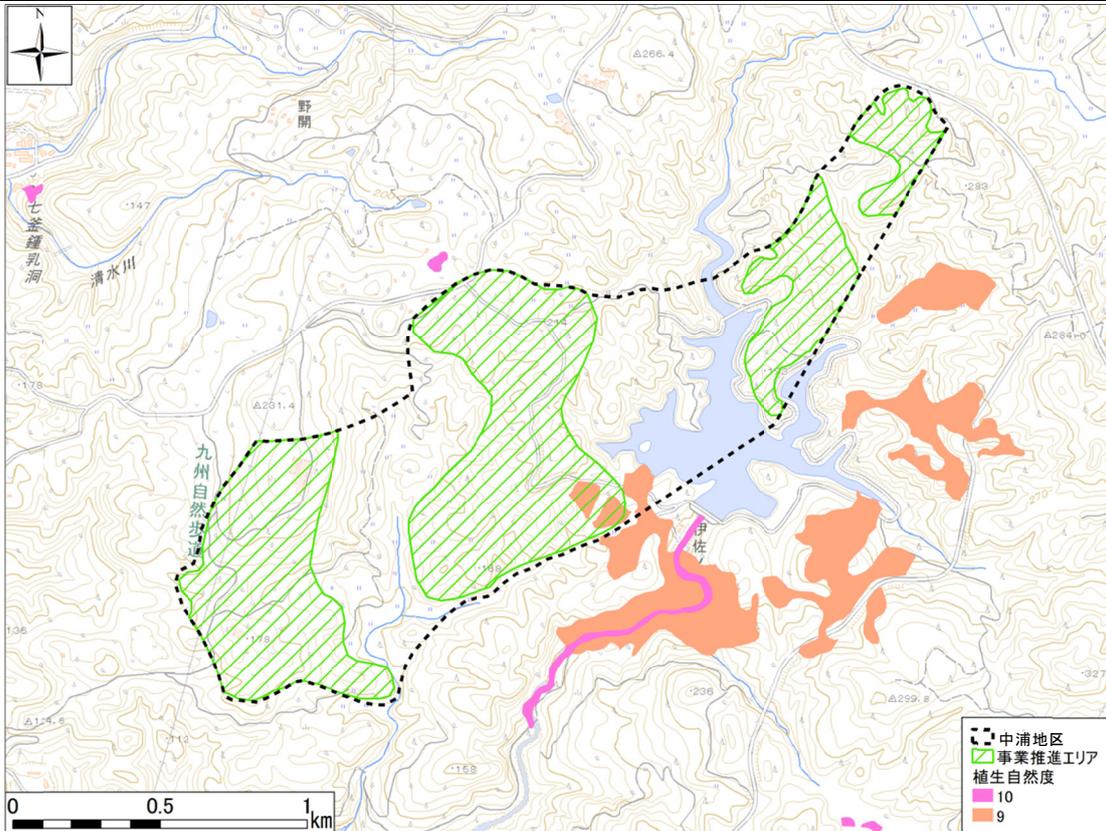
項目	情報	留意すべき内容
人と自然との触れ合い活動の場	九州自然歩道 (環境省長距離自然歩道)	エリア内には、九州自然歩道が存在するため、事業を検討する際に事業者は、土地改変や資材運搬などによる影響に留意する必要がある。
	野外レクリエーション施設	エリア内に位置する伊佐ノ浦公園は、自然との触れ合い活動が出来る施設である。事業を検討する際に事業者は、施設の利用(利便性の低下など)に対する影響を検討する必要がある。
事業計画	民有林保安林	エリア内には、解除が困難とされる傾斜度 25°以上の一級指定地の民有林保安林が存在する。事業を検討する際に事業者は、保安林の位置、種類、指定状況を確認し、風車の配置や取り付け道路等の地形改変区域が含まれないように留意するとともに、関係者と協議する必要がある。
	地域森林計画における森林経営計画	エリア内には、計画が作成されている森林が存在する。事業を検討する際に事業者は、風車や取り付け道路等の配置検討にあたり当該計画の詳細を把握し、関係者と協議する必要がある。
	鉱業権区域	エリア内には、鉱業権区域が存在する。事業を検討する際に事業者は、鉱業権の内容について把握し、必要に応じて関係者と協議することに留意する。
	水道利用	エリア内には、西海市水道水源保護条例で指定されている水源保護区域の既存水源(伊佐の浦川砂防ダム上流域; 農業用の伊佐の浦ダムは伊佐の浦川砂防ダム上流域に位置している)が存在する。事業化の際に事業者は、西海市水道水源保護条例に則り、関係部局と協議し、必要に応じて関係地域に対して説明会の開催等の措置を取る。
	電波障害	エリア内はテレビ受信への影響が懸念される地域である。事業を検討する際に事業者は、放送波中継、テレビ受信者への放送電波受信に対する影響について検討し、関係者と協議する必要がある。
	埋蔵文化財	エリア周辺では、「石鍋」遺跡が存在する可能性がある。事業を検討する際に事業者は、土地改変する範囲が確定した段階で、西海市教育委員会へ調査の実施について相談する必要がある。
	農地	エリアの北側にはみかん畑等の農地が存在する。事業化の際に事業者は、関係者と協議するとともに、農業従事者への影響についても留意する必要がある。
その他	累積的影響	エリア内外に、別事業の風力発電施設が計画された場合には、事業者はそれらの風力発電施設の影響も含め、環境影響を検討する必要がある。

注「エリア」: 西海市風力発電等に係るゾーニング計画の「事業推進エリア(中浦地区)」

事業を進める上での留意事項（騒音・低周波音、風車の影）

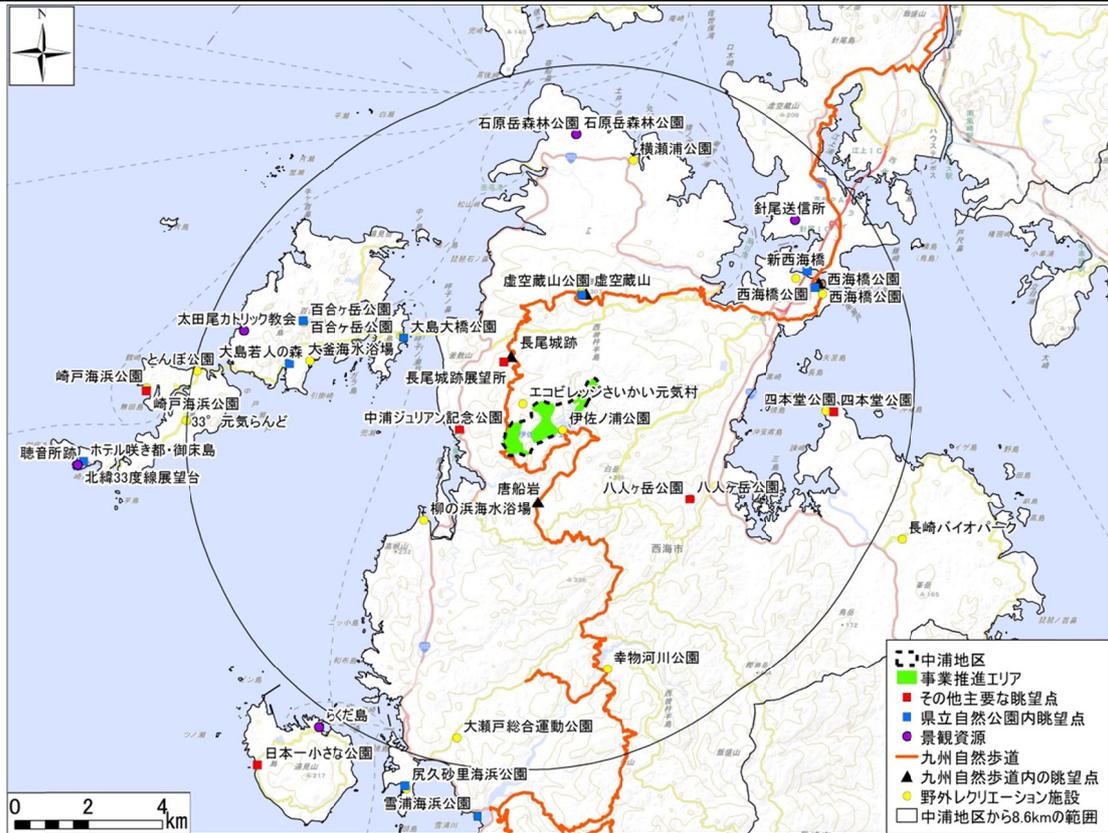


事業を進める上での留意事項（植物）



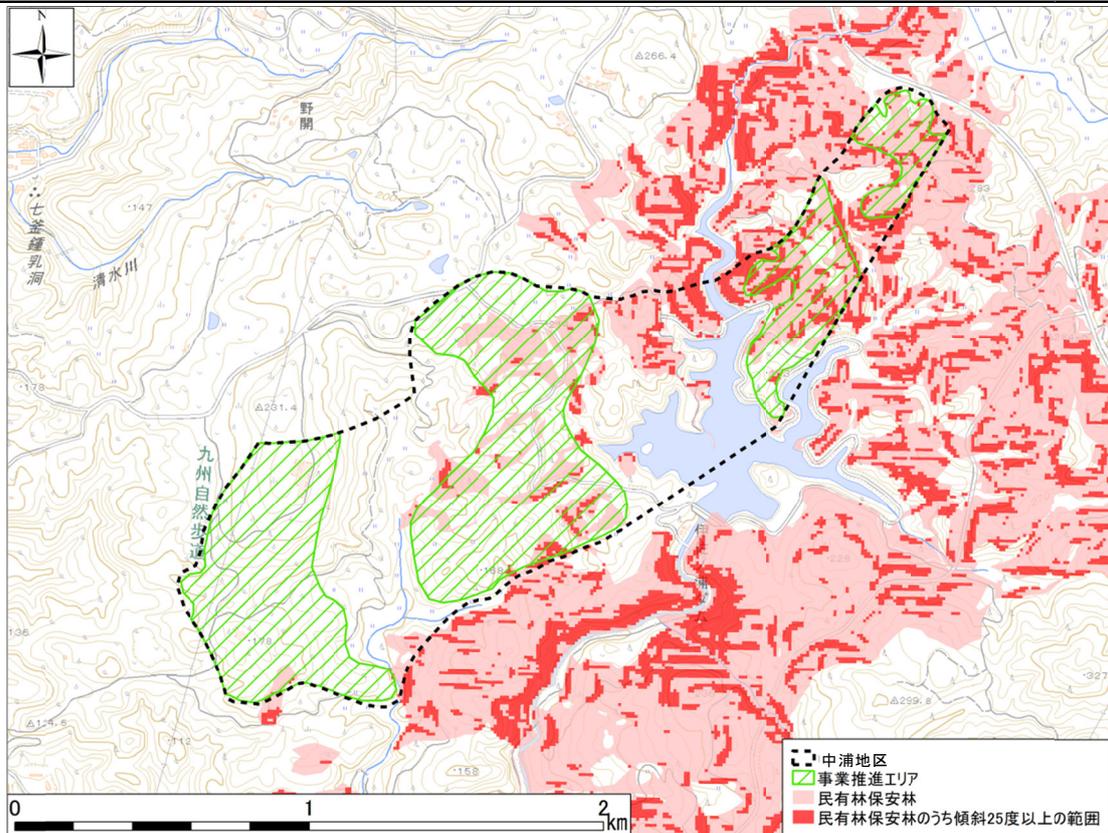
図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています

事業を進める上での留意事項（景観、人と自然との触れ合い活動の場）



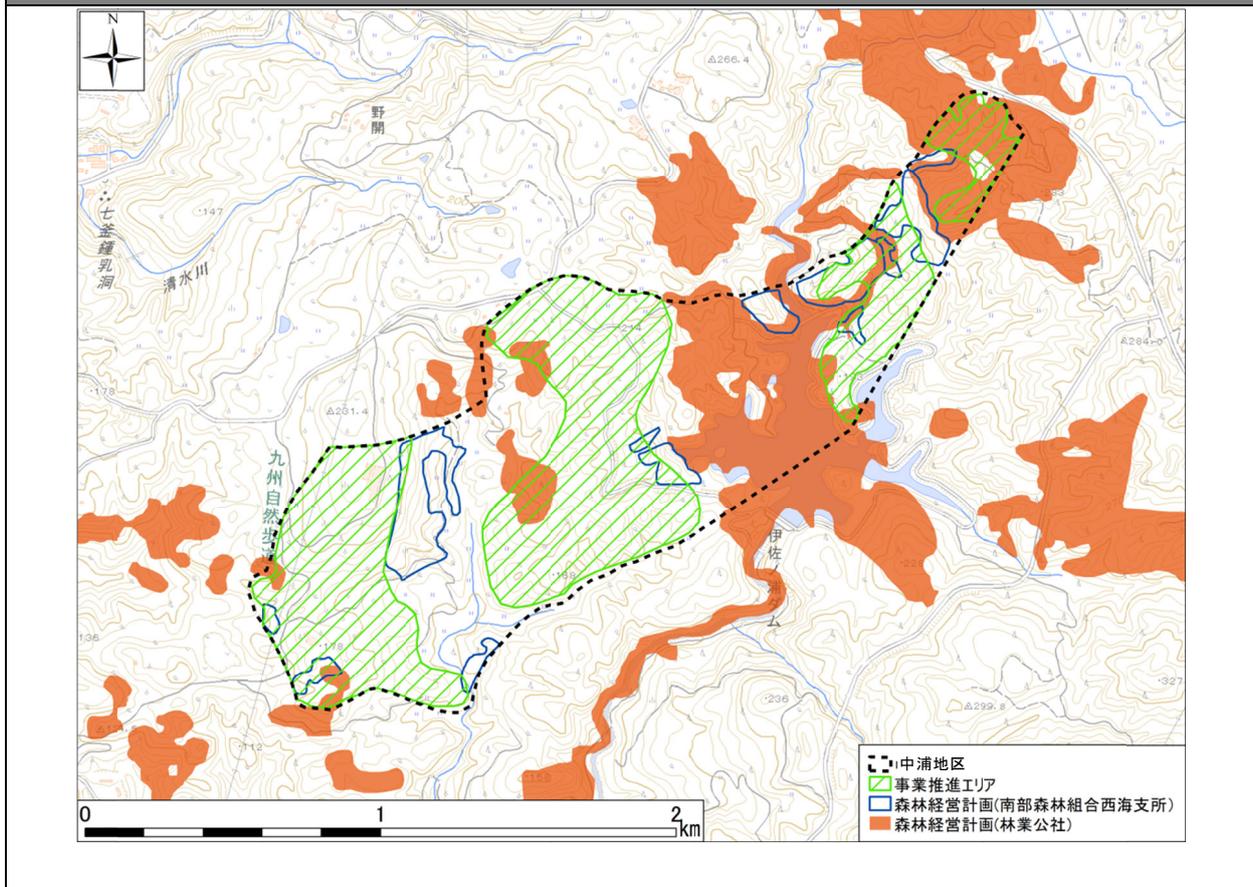
※8.6kmの範囲：風車（高さ150mを想定）を設置した際の視野角1°の範囲

事業を進める上での留意事項（事業計画：民有林保安林）



図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています

事業を進める上での留意事項（事業計画：地域森林計画、森林経営計画）



図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています

環境保全について

～江島地区における環境留意事項～

これまでの検討会での取り組みより江島地区において挙げられた環境影響に関する意見は以下の通りである。

これらの意見及び「西海市風力発電等に係るゾーニング計画」における「事業推進エリアにおける留意事項」を踏まえ、江島地区において事業を実施する場合には次ページに示す「江島地区における環境留意事項」を考慮することとする。

○これまで述べられた環境影響に対するご意見

【騒音】

・地域住民としては騒音、超低周波音の影響が最も気になると考えられる。その点についてはしっかりとしたデータを示していただき住民の方の理解を得ていくことが重要だと考えている。

【地下水】

・建設時の影響について、江島地区の上水道は地下水を利用している。地下水脈に対して工事の影響は生じないのか。

【風車の影（シャドーフリッカー）】

・風車の影による影響を懸念している。

【テレビ電波】

・テレビ電波への影響はどうか。

江島地区における環境留意事項

項目		留意すべき事項
騒音・低周波音、風車の影	住居	エリア内に位置する江島には 100 人ほどが生活しており、漁港周辺に集中している。事業を検討する際に事業者は、近隣の住居に対して風車から発せられる騒音・低周波音や設置による影の影響について検討する必要がある。
	環境配慮施設 (学校、病院、福祉などの環境に配慮すべき施設)	エリア内に位置する江島には江島小中学校や診療所などの環境配慮施設が存在する。事業を検討する際に事業者は、風車から発せられる騒音・低周波音や設置の影について、環境配慮施設への影響について検討する必要がある。
水利用	地下水	江島には地下水脈が存在し、上水道に利用されている。事業を検討する際に事業者は、島内における施設の設置や工事の実施による地下水脈への影響について検討する必要がある。
動物	主要な渡り鳥のルート	西海市はアカハラダカの主要な渡りのルートとなっている。またツル類に関して、ほぼ全世界のナベヅル 1 万羽程度は 2 月～3 月にかけて鹿児島から北へ移動するがその際に西海市の上空を通る。調査で確認されたツル類の渡り状況は、飛行高度が地上から 160m 以上であり、風車の高さを 160m 未満にすれば影響は軽微であると考えられる。ただし、鳥類の渡り状況は、気象条件や渡り鳥個体の状態により、常に同一の経路や高度をとることは限らないため、事業を検討する際に事業者は、渡り鳥に関する詳細な調査、予測及び評価を実施する必要がある。
	魚類の回遊ルート	エリア周辺の風力発電施設の設置による魚類の回遊ルートへの影響については、現段階では情報が不足しており不明な点が多い。そのため、事業を検討する際に事業者は、最新の情報収集に努め、必要に応じて調査・検討を実施する必要がある。
植物	藻場	平成 25 年、26 年の長崎県が実施した調査では江島周辺には藻場の分布が確認されている。事業を検討する際に事業者は、藻場の分布等の状況の詳細を把握し、必要に応じて保全対策を検討する必要がある。
景観	主要な眺望点	エリア周辺には、碁石が浜などの眺望点が存在する。事業を検討する際に事業者は、これら以外の眺望点にも十分留意し、設置する風車に対して、各眺望点からの視認可能性、眺望特性（主要な眺望方向、景観要素など）、支障の程度を確認し、支障の程度に応じた配慮を検討する必要がある。
	眺望景観	
その他 陸上利用	テレビ電波	事業を検討する際に事業者は、放送波中継、テレビ受信者への放送電波受信（共同受信施設の受信を含む）への影響について検討する必要がある。
その他 海面利用	海上交通 (航行船舶)	事業を検討する際に事業者は、船舶航行の安全に関わる項目について十分に検討し、海上保安庁などと船舶航行に係る安全対策の協議等を実施（必要に応じて第三者機関による調査・検討を含む）する必要がある。
	海上インフラ（灯台、灯浮標など）	

注「エリア」：西海市風力発電等に係るゾーニング計画の「事業推進エリア（江島地区）」

※ …新たに追加した内容

江島地区における環境留意事項

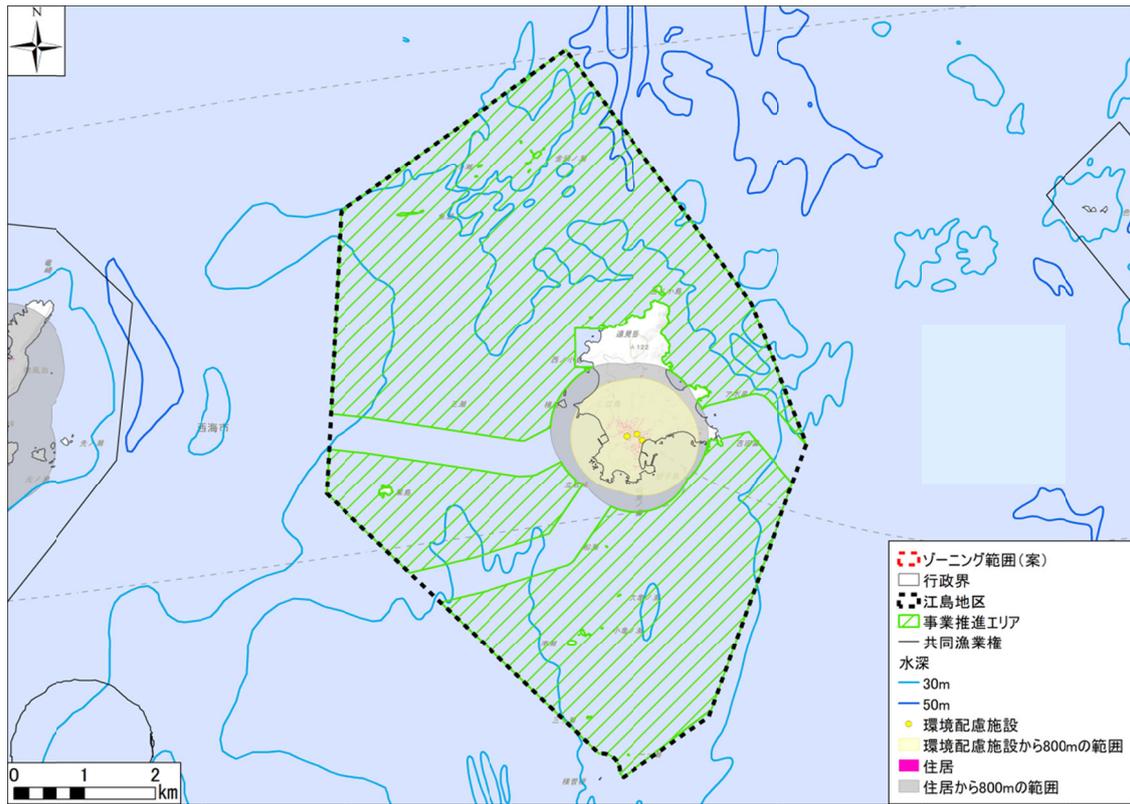
項目		留意すべき事項
その他海面利用	定期航路	エリア内には崎戸商船の航路と九州商船等の予備航路（第2～5基準経路）が存在する。事業を検討する際に事業者は、運航事業者に対して、十分な説明・協議を行うとともに、船舶の航行安全に配慮した離隔距離を設定する必要がある。
	港湾・漁港	エリア周辺に江島の丸田漁港が存在する。事業を検討する際に事業者は、将来構想や開発空間の留保等、港湾及び漁港の開発、利用、保全計画に影響を及ぼさないように留意し、関係者と十分な協議を行う必要がある。
	指定避難海域・一般錨地	エリア内には一部「船舶運航事業者における津波避難マニュアル作成の手引き」（平成 26 年，国土交通省海事局）に基づき設定された指定避難海域が存在する。事業を検討する際に事業者は、その変更を含め海事関係者との十分な協議を行う必要がある。
	漁場利用	エリア内および周辺では、主に刺網（イセエビ）、釣り（一本釣り、曳縄）が操業されている。事業を検討する際に事業者は、操業実態を調査し、漁業関係者との十分な調整・協議を行い、漁業協調策を含めた両者の共存策の検討を行う必要がある。また、他地域から入漁する漁業主体に対しても、十分な調整・協議を行う必要がある。（漁業種類別の留意事項については補足表 1 を参照）
	漁業権	事業を検討する際に事業者は、共同漁業権の許可を受けた漁業主体漁業者に対して十分な説明・協議を行う必要がある。
累積的影響		エリア内外に、別事業の風力発電施設が計画された場合には、それらの風力発電施設の影響も含め、環境影響を検討する必要がある。

注「エリア」：西海市風力発電等に係るゾーニング計画の「事業推進エリア（江島地区）」

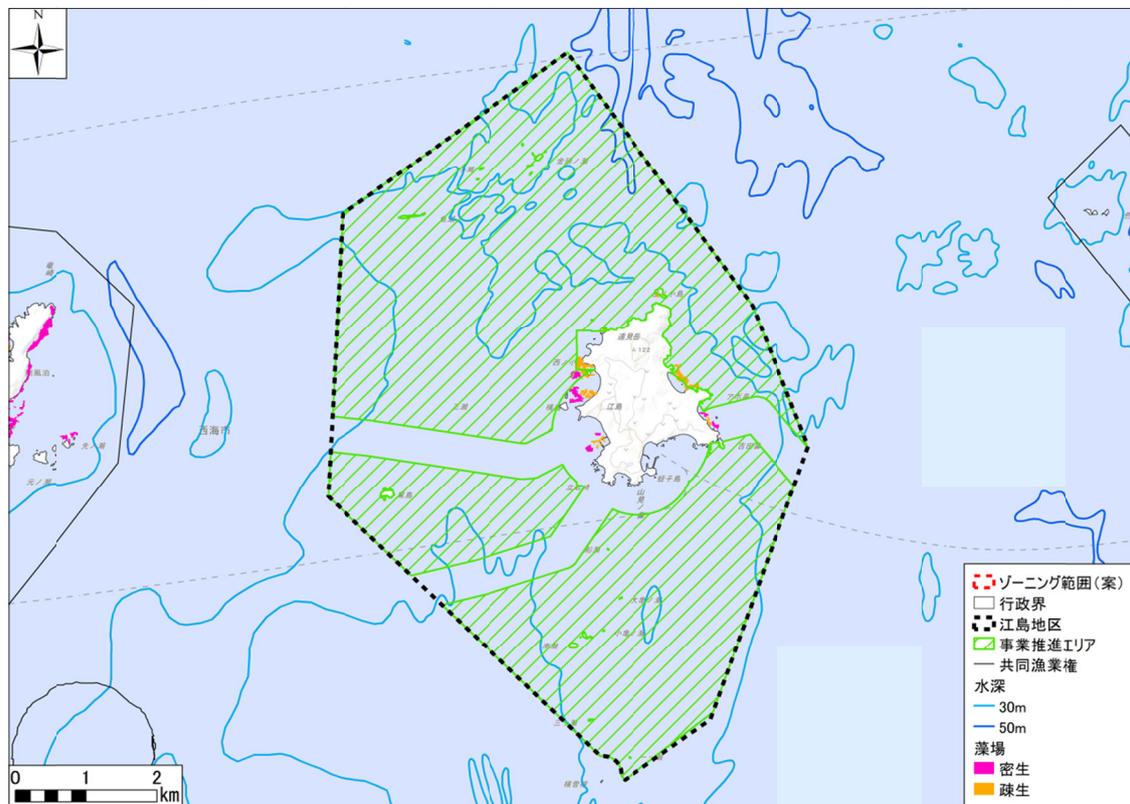
補足表 1 漁業種類別の留意事項（江島地区）

漁業種類	留意すべき内容
刺網（イセエビ）	イセエビは岩礁域に生息するため、岩礁上に風車を設置する際には、イセエビの生息環境への影響について留意する必要がある。また、漁業操業時の障害の程度についても留意する必要がある。
釣り（一本、曳縄）	魚類蝟集効果により、風車の周辺が一本釣り、曳縄の漁場として利用される可能性が考えられる。そのため、自由漁業である一本釣り、曳縄との安全対策を含めた海面の利用調整に留意する必要がある。

事業推進エリアにおける留意事項（騒音・低周波音、風車の影）

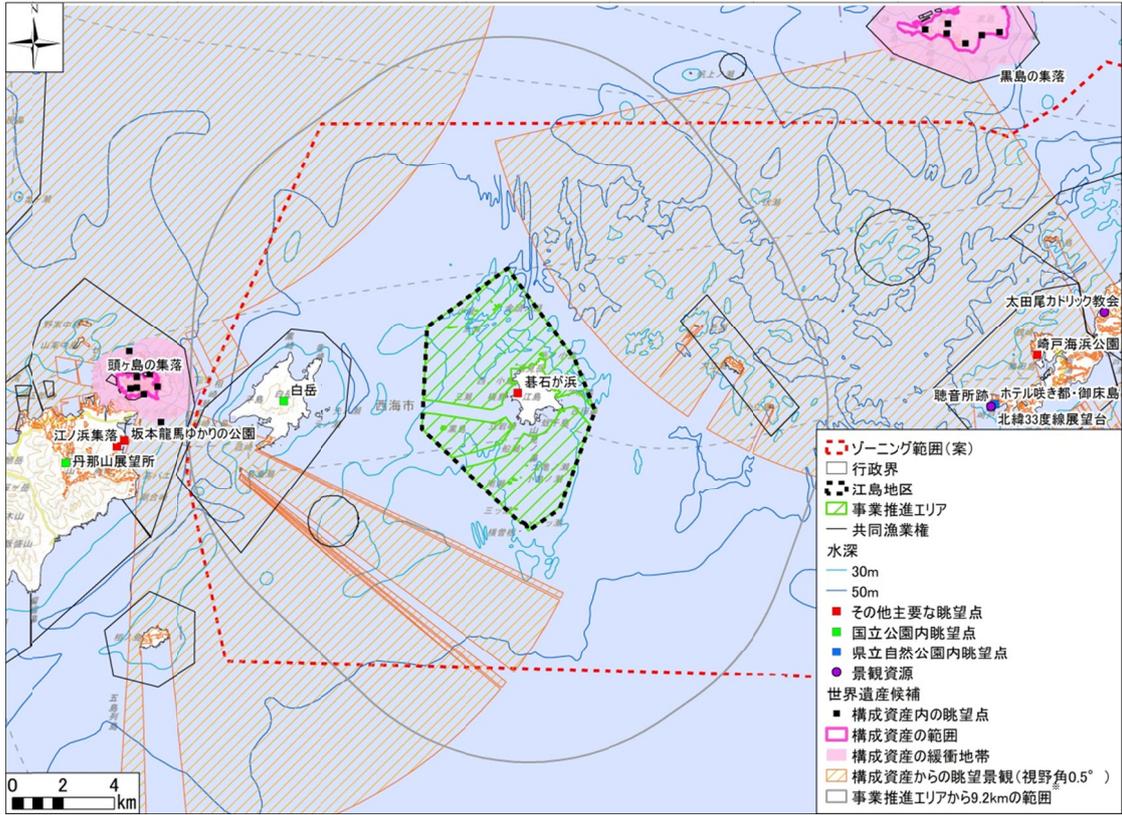


事業推進エリアにおける留意事項（植物）



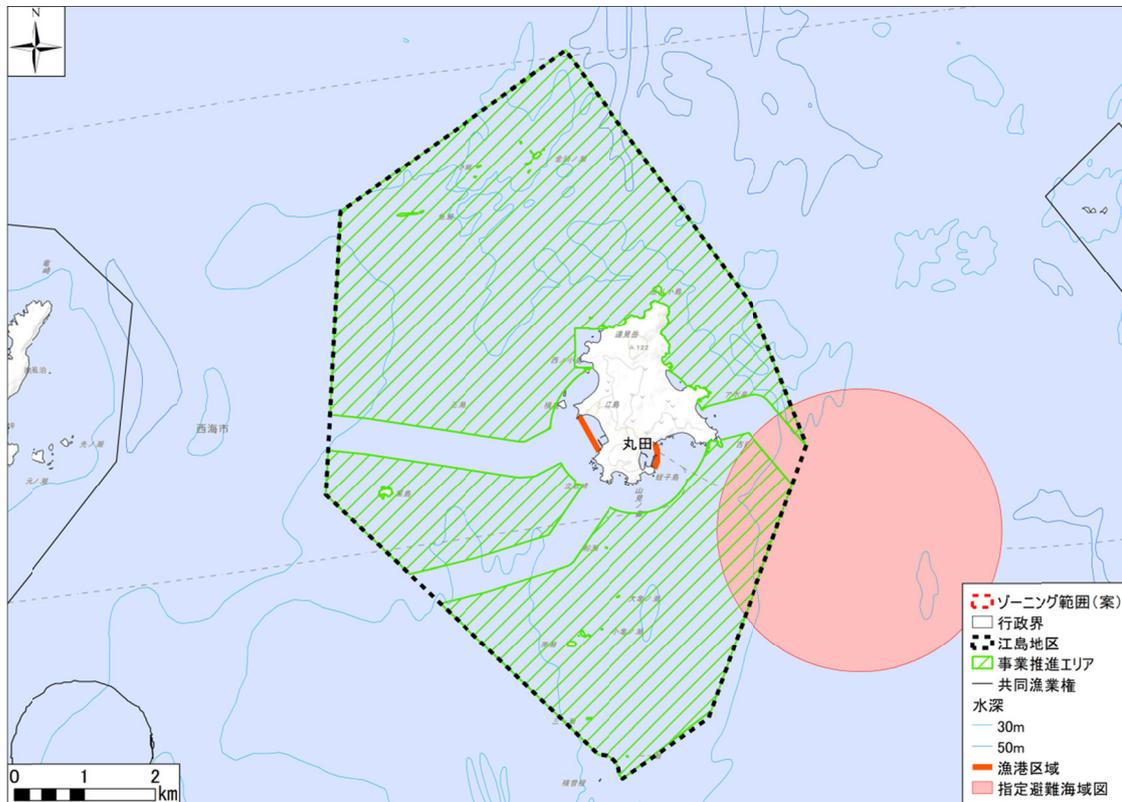
図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています。

事業推進エリアにおける留意事項（景観）



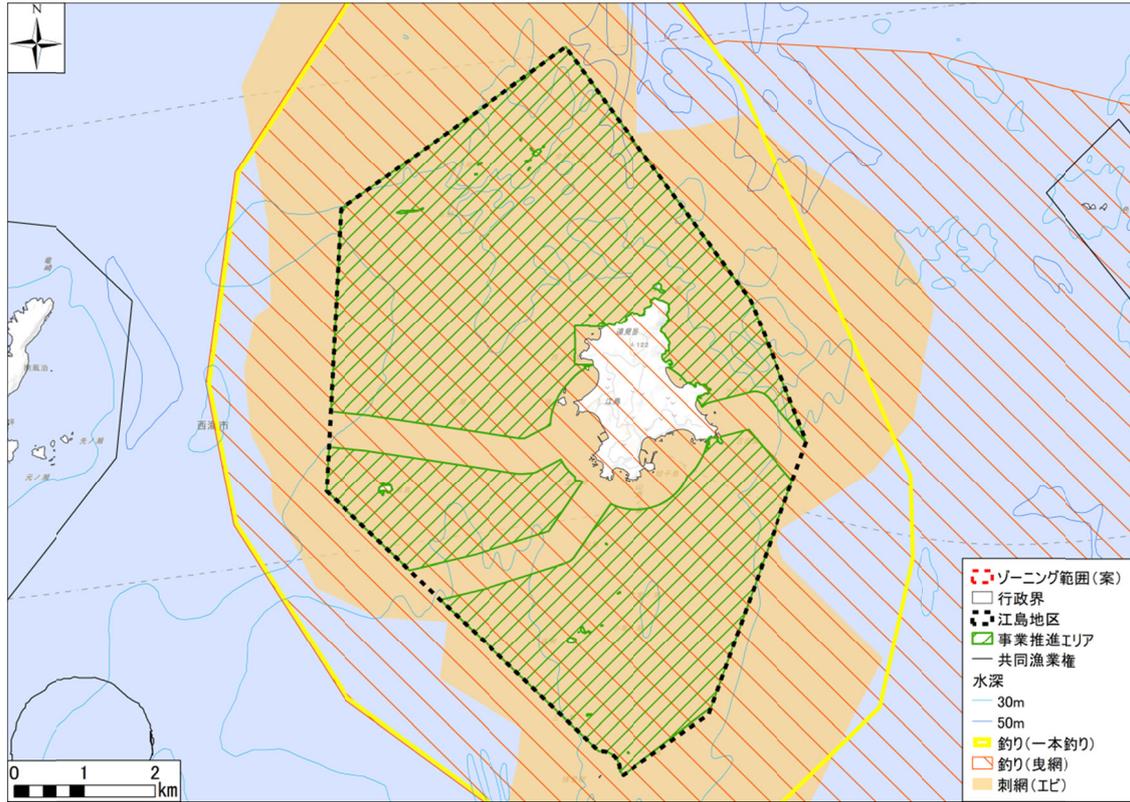
※9.2kmの範囲：風車（高さ160mを想定）を設置した際の視野角1°の範囲

事業推進エリアにおける留意事項（その他：漁港、避難指定海域）

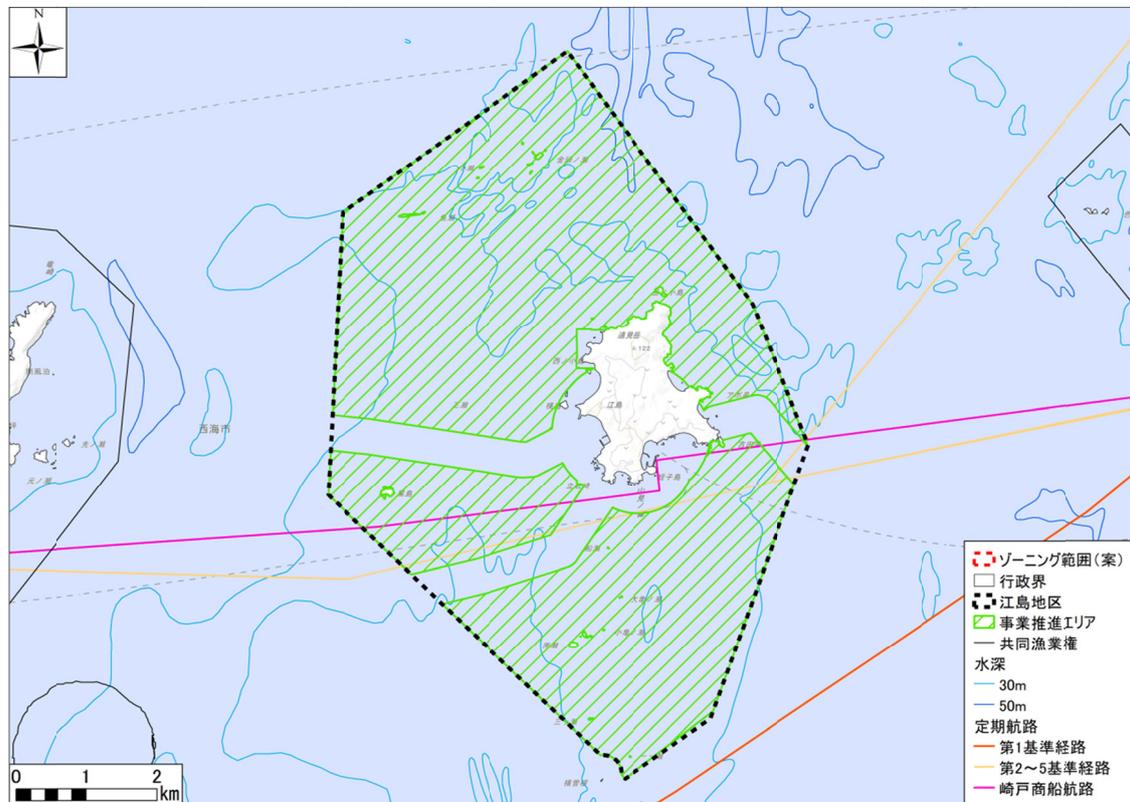


図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています。

事業推進エリアにおける留意事項（その他：漁場利用）



事業推進エリアにおける留意事項（その他：定期航路）



図の背景には国土地理院発行の地理院地図を使用しています。

地域貢献について

～中浦地区ワークショップの整理結果～

1) ワークショップ結果の整理について

平成 30 年度第一回中浦地区検討会において取り組んだワークショップにおける付箋を、第二次西海市総合計画における基本目標及び政策と照らし合わせ整理した。

2) 地域活性化策の方針について

ワークショップの整理結果から、今後地域活性化に取り組んでいくに当たりどのようなことに取り組んでいくべきかその方針を事務局で検討した。

【留意事項】

この方針はあくまでもワークショップの意見を整理したものであり、今後風力発電事業者や西海市が取り組むことを決定したものではない。

今回のワークショップの結果を踏まえ、今後どのような地域活性化について取り組んでいくか地区分科会（仮称）の中で地域、風力発電事業者及び西海市が具体的に検討し、取り組んでいく必要がある。今回のワークショップの整理結果はその検討を行うためのベースとなる資料である。

～今後地域活性化に取り組んでいくに当たり～

【各主体の役割について】

地域活性化において「土の人」、「水の人」、「風の人」の役割があるように、各主体ごとにそれぞれの役割がある。



“水”の人

その土地に寄り添い、種に水をやり続ける存在。中間支援的存在。

“風”の人

その土地に「種」を運ぶ、刺激を与える存在。

“土”の人

そこに居続ける存在。しっかり根を張り、活動し続ける存在。

出典：「関西大学 戦略的研究基盤団地再編リーフレット AUGUST 2013 VOL.136 まちづくり+クリエイティブ-市民参加の方法論、風の人からの提言-」

(www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/danchi/136.pdf)

【今後の地域活性化における取組について】

地域活性化を進めるに当たり、様々なことが起こりうると考えられる。各主体がそれぞれの役割を認識・理解し、地区分科会の中でそれぞれの取組内容を協議・共有しながら、最終的目標の達成に向けてできることから継続的に取り組んでいくことが大切となる。



中浦地区 ワークショップ結果及び今後の方針

ワークショップ意見	第2次西海市総合計画		地域活性化策の方針	
	基本目標	基本施策		
不安がない地域に（医療、教育、住居、若い人や子どもの声があふれる地域。小学校就学前の子どもの数）	生涯にわたり活躍できるひとづくり	生きる力をはぐくむ学校教育の実現	・環境教育における風力発電施設の利用	
風力発電の学習環境の整備				
子供＝青年の学びの場を提供する 「キーワード」再生可能エネルギーと農業、観光（鍾乳洞、伊佐浦公園）		地域を支える文化・芸術、スポーツの振興	いつでもどこでも学べる生涯学習の推進	・祭事の継続的な開催
「ウインドカレッジ」設置 ― 長大、総科大、高専とのタイアップ				
エネルギー（特に再エネ）へ理解ある地域				
高齢者層と若年層が交流を深め地域の伝統文化が継承される地域				
中浦浮立の継承				
浮立の毎年開催				
中浦の歴史・特に中浦ジュリアン出生の地、楠本長三郎生家跡。人物の歴史にまつわる散策道が整備できればよいと思う				
史跡の活用による地域を訪れる人の増加				
地域の産業歴史を学ぶ場を作る				
地域の人（特に若者）に地元の歴史について知ってもらえるように！				
中浦の文化・歴史・自然を伝える博物館やテーマ館がない				
人口の減少や高齢化は避けられないかもしれないが、それでも働いて生活できる場所があり地域社会が維持できるようになってもらいたい	さいかいで活躍できるしごとづくり	地域の特性を生かした農林業の振興	・耕作放棄地を利用した農産物の栽培や農業体験の実施	
荒廃地が多い				
土地の整備について、地主の理解が必要である				
農産物のブランド化				
名産のアピール・オリーブ・トマト・みかん				
農業用地の貸し出し（オーナー制度なども）				
みかん、オリーブ、芋、すいかなどのオーナー制事業		個性と活力あふれる商工業の振興	・観光資源の活用に向けた整備と観光ルートの検討 ・農業体験・農家民泊等を利用した交流人口の増加 ・中浦の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成	
自然散策農業体験、いなか生活の体験などができるような環境整備				
地域資源を生かしたキノコ生産施設等への助勢的支援（補助金等）				
地元特産品の紹介、販売から経済効果を				
地域で生活していく為に安定した収入・職場が確保されている状況であること				
若い人たちが増えるよう仕事場をつくる				
住民にとって身近な存在であった農協(JA)が統合されなくなる。唯一の商店であったAコープもあと2～3年で撤退する心配がある	魅力ある地域資源を活用した観光業の振興	・観光資源の活用に向けた整備と観光ルートの検討 ・農業体験・農家民泊等を利用した交流人口の増加 ・中浦の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成		
コンビニがほしい				
ウォーキングロードの整備・竹林、つた類の伐採				
経済メリットがある、交流人口を増やす ①観光客、②修学旅行（体験）、③外国人旅行者				
集客、開催費用の確保				
基地局が必要です。※WI-FIの整備も				
風力発電量に照明やモニュメント（ロボット）				
伊佐ノ浦公園 夏以外の集客				
伊佐ノ浦ダム周辺の活性化				
伊佐ノ浦ダムをもっと活用できないか				
七釜鍾乳洞の認知度向上				
七釜鍾乳洞を中心としたエリアに人を呼び込む				
七釜鍾乳洞を観光資源として大いに生かして県内外からの集客に期待したい				
九州自然歩道の整備				
江川内川を生かした「ほたるロード」の整備（ウォーキングロードが無い）				
中浦ジュリアン、世界遺産を活かす				
夕日がジュリアン公園の活用				
ジュリアン公園は夕日がきれい 夕日を見ながらのミニコンサート開催				
四季を通じて人が訪れる地域				
つり客・BBQ客・夕日				
地域の景観を整備し、観光ルートの構築を図る				
自然散策コースとネイチャーガイドの整備				
鍾乳洞、ジュリアン、伊佐ノ浦を全国区へ				
海、山、空、星、水が売り物になる				
観光資源の洗い出し掘り起し（観光マップ作成、歴史を誇る場の提供、PR、CM）				
西海楽園跡地の活用（宿泊施設の可能性）				
宿泊施設				
ガイド育成				

中浦地区 ワークショップ結果及び今後の方針

ワークショップ意見	第2次西海市総合計画		地域活性化策の方針
	基本目標	基本施策	
電気が無料で使い放題の地域	安心して活躍できるまちづくり	安全で災害に強いまちづくり	・防災対応型電源供給システムの導入
崖崩れや水の問題など災害のない安心して生活できる地域づくり		確かな安心と自立を支える社会保障制度の実施	
高齢者が住みやすい地域に		安全で快適なみちづくり	・快適に利用できるように道路環境の整備
高齢者が安心して暮らせる地域			
高齢化が進んでいる。免許証の返上			
歩きやすい道路（雑草やグレーチングが目詰まりしていない等）			
ゴミ（タバコ吸い殻等、ペットボトル、ビニール袋）の無い美しい町			
地域全体が荒れている きれいに整備し、景観の良い地域づくりをしたい			
夜暗くて、曲がっていて、危ない道が多い			
歩道の草刈			
道路の整備			
安全な道（街灯、歩道のサイン）			
電気自動車の充電スポット設置			
仕事場までの通勤がスムーズになり、人が住み続けられる地域			
交通の便利さを			
電気バスの運行&コミュニティバス		安全で安定した水の供給	・地域住民や観光客に向けた宿泊施設・食事処の整備
水道水源に不法投棄があるので豊富な水源の確保を望む		循環型社会の実現を目指すまちづくり	
大規模な開発出来る所とできない地域との調和		地域の交流拠点づくり	・地域住民や観光客に向けた宿泊施設・食事処の整備
希少動植物の保全			
笑顔や笑いのある（住民それぞれ老いも若きも）町			
集落内での家庭間交流が希薄になっている			
相談ごと、近所付き合いを気軽に！！様々な不安が解決しやすい地域			
→相談→対応→解決（しくみづくり）			
子供達を含む、若い世代が住む元気のある地域にしたい			
若者が住みやすい地域に			
集う場所がある高齢者に優しい街			
中心部をつくる			
働きと憩いの場（風車周辺の整備作業（働）、風車を見ながらコーヒーを飲む）			
古民家を活用し移住者を増やす			
食事処ありますか？			
食事をするとところが増えたと助かる			
若者が集まるイベントの仕掛人を育成し、楽しく過ごせる地域	みんなでつくるさいかい	市民共同のまちづくり	・中浦の魅力を体験するイベントの開催
経済効果を期待する人が少ない			
地域全体に情報を流し、共有できること			
地域の人の協力(手弁当)お金がないので			
地域をひとつにする（リーダーの育成、サポーターの育成、根気強く外部からの専門家の受入）			
地域おこし協力隊？			
人手、賛同者の確保			
日本でこの地域しかない事への自信と誇りを持った人々の育成。			
リーダーの養成（問題解決のため皆が協力して推進できるか）			
専門性を持つ人の育成（地域に根付いた人）			
人の掘り起し（地域内での人材発見）			
いかにして本気にさせるか→動機付け			
資金が集まらない		市外への流出抑制と市外からの流入促進	・中浦地区プロモーション動画の作成
財源の確保			
補助金の活用			
全てに於いて取り組むための費用が不安(作り出すノウハウ)不足		市民に身近で効率的な行財政運営	
お金を落とす仕組み			
若者が多く住む活気のある地域にしたい		シティプロモーションの強化	
人口減少に歯止めをかけられない			
人材不足、若者不足			
観光協会、農業者（生産者）、市役所などいろんな団体との連携			
地縁団体の組織はしっかりしている。問題意識を共有できるかがカギとなる			
既存のお客様に西海の魅力をきく			
情報発信（知名度の向上）			
西海市の認知度UP			
西海市といえば？			
田舎の良さを発信できるように			

基本目標：1.生涯にわたり活躍できるひとづくり

概要

西海市では市内の小中学生を対象とした、風力発電施設の見学を行っています。中浦地区には「風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業」における風力発電の事業推進エリアが設定されており、今後導入されると想定される風力発電施設を環境学習施設として利用することで、小学生等へ向けた新たな環境学習施設としての利用が期待されます。

地域の伝統行事に関しては、神待祭や4年に1度の中浦浮立が行われています。多くの地域住民が参加し、地域にとって大切な行事となっていますが、今後風力発電事業者等の参加による継続的な開催が望まれます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
1：生涯にわたり活躍できるひとづくり	1-5：生きる力を育む 学校教育の実現	1-5-2：豊かな心の育成とふるさとを学ぶ教育の推進	1-5-2-2：ふるさとを学ぶ教育の推進	方針 1-1：環境教育における風力発電施設の利用
	1-9：地域を支える文化・芸術、スポーツの振興	1-9-2：文化財の保存・保護・活用	1-9-2-3：地域伝統文化の継承	方針 1-2：祭事の継続的な開催

地域活性化策の方針 1-1: 「環境教育における風力発電施設の利用」

背景

西海市は、風力発電施設の見学等、市内の小中学生を対象とした環境教育を行っています。今後建設される風力発電施設を環境教育に利用することで、新たな環境教育の場の形成につながることを期待されます。



北九州市における風力発電施設見学の様子



松島における風力発電機見学の様子

出典：「Saikai ブログ」<http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/>

中浦地区分科会における検討方針

■環境教育における風力発電施設の利用

風力発電施設を利用した環境教育の実施を検討します。実施に当たっては、風力発電施設の仕組み等に関する勉強だけでなく、風力発電機の内部の見学など、より身近に風力発電施設を感じられるような内容の検討が必要です。

参考資料：ウィンドデイ 横浜

主体	横浜市	事業名等	ウィンドデイ 横浜
取り組みの概要	<p>「グローバルウィンドデイ2016 in 横浜親子風車見学会」では、横浜市報“広報よこはま”で参加者を募集し、抽選で当選した36組96名（内子供は44名）の親子が参加しました。まず関内の開港記念館の会議室で1時間程、クイズも交えて風力発電の説明が行われました。その後バスで瑞穂埠頭のハマウィング（市民出資の2MW 風車）まで移動し、風車の停止、タワー内の見学、再起動が実施されました。参加者のアンケート結果も「思ったより大きかった」「風車を真下から見れてすごい迫力でした」「すごく楽しかった」「もっと風力発電が増えたら良いと思いました」と好評でした。</p> <div data-bbox="544 1536 1134 1912" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="635 1917 1043 1939">2016年6月4日 横浜市親子風力発電所見学会記念</p> <p>出典：「グローバル・ウィンドデイ 2016 開催報告」http://jwpa.jp/2011_pdf/92-03windday.pdf</p>		

地域活性化策の方針 1-2: 「祭事の継続的な開催」

背景

中浦地区では神待祭や4年に1度の中浦浮立が行われています。このような行事には多くの地域住民が参加しており、地域にとって大切な行事となっています。中浦地区では人口が減少し、高齢化が進んでいますが、今後の定期的な開催が望まれます。



出典：「中浦の宝」 <http://saikai-nakaura.com/>

中浦地区分科会に
おける検討方針

■風力発電事業者等参加者の増加に向けた取り組み

風力発電事業者等参加者が増加するような取り組みを検討します。風力発電事業者にとっては、行事に参加することで地域との信頼関係醸成が期待されます。

参考資料：事業者による祭事への協賛

主体	エクイスエナジー	事業名等	—
取り組みの概要	<p>エクイスエナジーでは太陽光発電事業を行う青森県七戸町において、地域の花火大会や祭りに協賛し、クリーンエネルギーの電力事業者として地域の発展に貢献しています。</p> <p>【七戸夏祭り花火大会】 青森県七戸町で開催される「しちのへ夏祭り」への協賛を行いました。会場となった七戸町立中央公園では、2000発を超える美しい花火が打ち上げられ、来場者からは大きな拍手と歓声が送られました。</p> <p>【しちのへ町秋祭り】 しちのへ町秋祭りでは自主制作によるきらびやかな山車が町内を練り歩きます。エクイスエナジーでは、青森事業所が所在する七戸町荒熊内地区への協賛を行いました。</p>		  <p>七戸夏祭り花火大会・七戸秋祭りの様子</p>

基本目標：2.さいかいで活躍できるしごとづくり

概要

中浦地区ではみかんをはじめ柑橘類の栽培が盛んです。その一方で耕作放棄地が増えており、景観が悪くなっている場所もあります。今後このような耕作放棄地を利用し、新たな農産物の栽培を進め、景観の改善を図っていくことが望まれます。また整備した農地を利用した農業体験を実施することで、交流人口の増加につながっていくことが期待されます。

観光においては、七ツ釜鍾乳洞や伊佐ノ浦公園のように既に多くの方に利用されている観光資源のほか、江河内川のように整備をすれば観光資源として利用できる地域資源もあります。今後このような地域資源の整備を進め、中浦地区をめぐる観光ルートの作成やツアーを実施していくことで観光客などの増加が期待されます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
2：さいかいで活躍できるしごとづくり	2-1：地域の特性を生かした農林業の振興	2-1-1：次世代へつなぐ農林業基盤の整備	2-1-1-1：農地等の整備・維持管理	方針 2-1：耕作放棄地を利用した農産物の栽培や農業体験の実施
	2-4：魅力ある地域資源を活用した観光業の振興	2-4-1：地域資源を活かした観光資源の発掘	2-4-1-1：新しい観光資源の発掘・活用	方針 2-2：観光資源の活用に向けた整備と観光ルートの検討
		2-4-3：観光受入体制の充実と認知度アップ	2-4-3-3：ガイドやインストラクターなどの人材育成とネットワーク化の推進	方針 2-3：中浦の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成

地域活性化策の方針 2-1: 「耕作放棄地を利用した農産物の栽培や農業体験の実施」

背景

中浦地区ではみかんをはじめ柑橘類の栽培が盛んですが、耕作放棄により利用されず景観が悪くなっている場所があります。今後このような耕作放棄地を利用し、農産物の栽培を行うことで新たな働く場の形成につながることを期待されます。また整備した農地を利用した農業体験を実施することで交流人口の増加につながっていくことが期待されます。



出典：「Saikai ブログ」 <http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/>

中浦地区分科
会における検討方針

■耕作放棄地を利用した農作物の栽培

耕作放棄地を利用した農作物の栽培を検討します。管理費用等を地域外から募集しつつ、作業は地区の方と会員で行うオーナー制度等の仕組みを検討することで、交流人口の増加も期待できます。

参考資料：棚田貸します制度（オーナー制度）について

主体	長野県千曲市	事業名等	みんなのふるさとふれあい事業
<p>取り組みの概要</p>	<p>長野県千曲市では、平成8年度より、姪石（めいし）地区で棚田の保全、都市と農村の交流を進めるため「棚田貸します制度」（棚田オーナー制度）を実施しています。</p> <p>千曲市が特定農地貸付法により棚田を地権者から借り受け、会員募集し、貸し付けをしています。会員は田植え、草刈り、稲刈り、脱穀の各行事に参加し、収穫物(お米)はすべて会員のものになる仕組みです。行事の参加は自由で収穫物のみ受け取るコースもあります。</p>		
	A photograph showing a wide view of terraced rice fields at sunset. The sun is low on the horizon, casting a golden glow over the landscape. A person is visible in the foreground, walking through the fields.		A group of people, including children and adults, are gathered in a muddy field, likely participating in a rice field activity. Some are wearing hats and casual clothing.
	<p>出典：「千曲市 HP 棚田貸します制度（オーナー制度）について」 http://www.city.chikuma.lg.jp/docs/2013031500256/</p>		

地域活性化策の方針 2-2: 「観光資源の活用に向けた整備と観光ルートの検討」

背景

中浦地区には伊佐ノ浦公園や七ツ釜鍾乳洞のように既に観光資源として利用されているもののほか、江河内川のように今後手入れをすれば新たな観光資源として利用できるものもあります。今後江河内川のような整備が必要な場所の整備を進めつつ、地域全域をめぐるような観光ルートを整備することで、中浦地区全域での観光客等の増加が期待されます。



中浦地区の主な観光資源（上：伊佐の浦公園、左下：七ツ釜鍾乳洞、右下：中浦ジュリアン記念公園）

江河内川の状況

中浦地区分科会に
おける検討方針

■ 江河内川等の整備と観光ルートの作成

江河内川等の整備と中浦地区全域を巡るような観光ルートの作成を検討します。また風力発電施設についても一つの地域資源ととらえ、観光資源としての利用や観光ルートへの組み込みを検討します。

参考資料：多良川ホタルの里河川公園

主体	長崎県河川課	事業名等	みんなのふるさとふれあい事業
<p>取り組みの概要</p>	<p>多良川はホタルが乱舞する清らかな河川です。この公園は水面まで近づきホタルを鑑賞することが出来るように地域の方々がアイデアをだし、「みんなのふるさとふれあい事業」で整備されています。</p> <p>※「みんなのふるさとふれあい事業」 長崎県河川課では平成19年度から平成21年度にかけて、県民の皆様が身近な自然とふれあい、楽しめるよう「みんなのふるさとふれあい事業」を実施しました。この事業は、従来より美化活動や環境学習に熱心に取り組んでいただいている愛護団体等の皆様と連携して、子供たちが安心して、自然にふれあい、遊び、学ぶために、魚道や護岸、散策路の整備を行うものです。整備した施設を利用した環境学習や清掃活動等が行われています。</p> <p>出典：「ながさき旅ねっと」 https://www.nagasaki-tabinet.com/guide/60551/</p>		

地域活性化策の方針 2-3: 「中浦の魅力を経験するツアーの実施やガイドの養成」

現況	<p>中浦地区では七ツ釜鍾乳洞における地底探検ツアーや中浦ジュリアン記念公園からスタートする史跡めぐりツアーが開催されています。中浦地区には魅力のある資源が豊富に存在しており、現在行われているツアーに加え、今後新たなツアーを実施していくことで交流人口の増加につながっていくことが期待されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>出典：「Saikai ブログ」http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/ 「中浦の宝」http://saikai-nakaura.com/</p>
中浦地区分科会における検討方針	<p>■ 地域資源を利用したツアーの実施やガイドの養成</p> <p>現在利用されている地域資源や、江河内川、風力発電施設等今後新たに整備可能な資源を利用したツアーの検討を行います。またツアーの実施とともに中浦地区の魅力を PR できるような人材の育成を検討します。</p>

参考資料：地域資源を活かした体験型観光の推進

主体	NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク	事業名等	—
取り組みの概要	<p>NPO 法人 体験村・たのはたネットワークでは地域資源を活用した「サッパ船アドベンチャーズ」、「北山崎ネイチャートレッキングガイド」、住民講師による「ガラス吹き球編込み体験」「貝殻アート」「番屋料理体験」等の漁村地域の資源を活用した体験プログラムを提供しています。</p> <p>住民ガイドは体験プログラムの収益のうち4～7割を得る仕組みとなっており、宿泊施設や民泊への新たな顧客を創出しています。事業推進のための体制として、漁協、農協、森林組合、商工会、宿泊施設関係者等が参画するNPO法人が、体験型観光を推進しています。NPO法人の設立、運営までを村が主導し、他県で体験型観光の取組経験のある行政経験者や島への移住者等、多様なバックグラウンドを持つメンバーがNPO法人に参加しています。</p>		 
	<p>出典：「離島振興のあり方検討委員会 第2回 資料2 光・海業分野の先進的・効果的な取組事例の調査結果」http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/meeting_H27</p>		

基本目標：3.安心して活躍できるまちづくり

概要	<p>中浦地区では、一部の地域に急傾斜地崩壊（がけ崩れ）危険箇所や地すべり危険箇所が指定されています。今後より地域住民が安心して生活できるような施設や仕組みの整備が望まれます。</p> <p>道路については、草が茂っていたり、土地が荒れていたりとして景観が悪くなっている場所があります。また定期的な草刈りを行わないと見通しの悪さや通行の妨げになり安全面に支障をきたす可能性もあります。今後中浦地区を訪れた方に気持ちよく地域を回ってもらうために、また地域住民が気持ちよく道路を使い通勤や通学等を行うためにも、道路環境の整備が望まれます。</p> <p>また今後観光客や風力発電施設の視察を受け入れ増やしていくためには、宿泊施設や食事処の整備が必要になります。特に食事処については地域住民も気軽に利用できるような施設の整備が望まれます。</p>
----	--

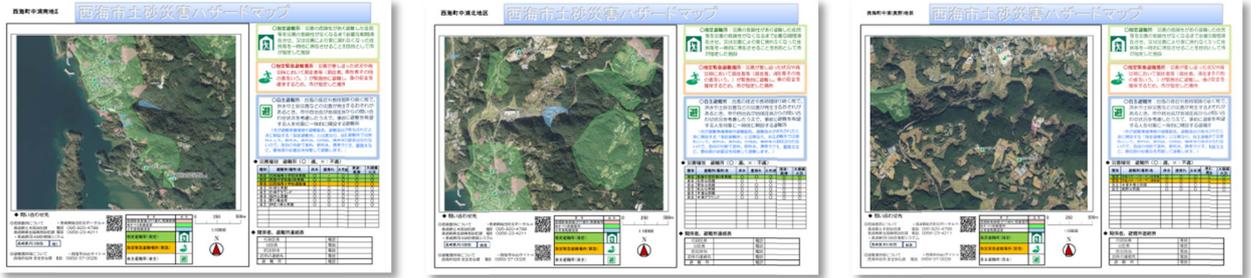
西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
3.安心して活躍できるまちづくり	3-1：安全で災害に強いまちづくり	3-1-4：自然災害に強いまちの基盤づくり	3-1-4-2：自然災害に強いまちの基盤づくり	方針 3-1：防災対応型電源供給システムの導入
	3-5：安全で快適なみちづくり	3-5-3：市民と一体となった快適で安全な道路環境づくり	3-5-3-1：市民参加による道路環境づくり	方針 3-2：快適に利用できるような道路環境の整備
	3-11：地域の交流拠点づくり	3-11-1：地域コミュニティ施設等の整備	3-11-1-1：集会所の整備	方針 3-3：地域住民や観光客に向けた交流施設・食事処の整備

地域活性化策の方針 3-1: 「防災対応型電源供給システムの導入」

中浦地区には、急傾斜地崩壊（がけ崩れ）危険箇所や地すべり危険箇所が指定されている場所があります。今後災害時に安心して避難できる施設等の整備が期待されます。

背景



中浦地区分科会に
おける検討方針

■ 防災対応型電源供給システム等の整備

災害時における自立的な電源確保のため、防災対応型電源供給システム等の整備を検討します。

参考資料：指定避難所等への防災対応型太陽光発電システム等の導入

主体	仙台市	事業名等	—
----	-----	------	---

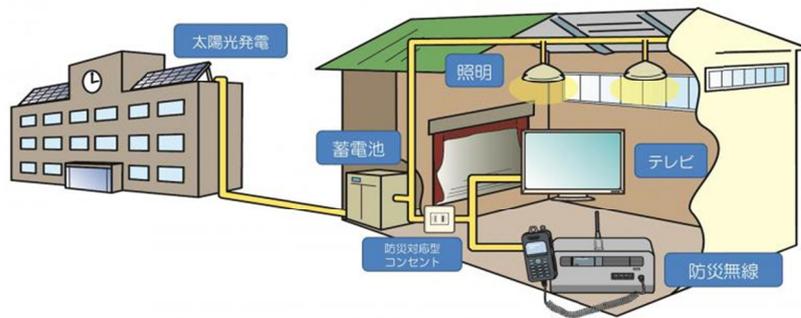
取り
組み
の概
要

東日本大震災では、電気・ガス・ガソリン等の供給が途絶し、避難所運営などの初期対応においてさまざまな不都合が生じました。こうした経験を踏まえ、災害時における自立的な電源を確保するとともに、平常時の二酸化炭素排出量の削減を図るため、市内の指定避難所等 196 ヶ所に太陽光発電と蓄電池を組み合わせた防災対応型太陽光発電システムを導入しました。

長期間の停電が発生しても、太陽光発電と蓄電池を組み合わせることによって、天候に左右されず、昼夜を問わず防災無線やテレビなどの情報通信機器、照明、コンセント等が使用できます。

【主なシステム構成】

- ・ 太陽光発電（10kW） / 蓄電池（15kWh） / 防災系高所証明（2 灯） / 防災系コンセント（3 箇所程度）



防災太陽光発電システムイメージ図

出典：「指定避難所等への防災対応型太陽光発電システム等の導入」

<https://www.city.sendai.jp/kankyo/kurashi/machi/machizukuri/energy/hinanzuyopv/index.html>

地域活性化策の方針 3-2: 「快適に利用できるような道路環境の整備」

背景

中浦地区には各地を巡る道路は整備されていますが、草が茂っていたり、土地が荒れていたりとして景観が悪くなっている場所があります。また定期的な草刈りを行わないと見通しの悪さや通行の妨げになり安全面に支障をきたす可能性もあります。

中浦地区分科会に
おける検討方針

■ 道路環境の整備

定期的な草刈り等による道路環境の整備を検討します。実施する際は風力発電事業者の参加を促すなど、地域住民との円満な関係構築を図ります。

参考資料：環境美化を考える会

主体	環境美化を考える会	事業名等	みんなのふるさとふれあい事業
取り 組み の概 要	<p>環境美化を考える会は、道路の美化活動を行うとともに、廃校になった小学校のグラウンドを開墾して農園（草木等最終処理場）として再利用することで環境学習や食育等の啓発などの活動の拠点としています。除草後の草木処理については、活動の自己完結型を模索し、除草で発生した草木を EM 堆肥化させ、種まき、栽培し、道路植栽に活用するなど循環型の仕組みを構築しています。</p> <p>また、小中学校と連携した総合学習（野菜の土づくり、育てる、調理までの食育）を平成 16 年より毎年実施するとともに、植栽用の花苗については道守・日本風景街道の団体を通じて他の地域でも植栽に利用されるなど、活動が地域に広がりを見せています。</p> <p>道路美化活動は、平成 11 年より月 1 回のペースで行われ、20 代から 70 代までの幅広い世代が参加しています。また、平成 16 年より、小中学校（9 校）の総合学習枠で環境・食育指導を、1 校につき年 6 回開催し、地域の教育現場と連携した取り組みが継続的に行われています。</p>		
<p>出典：道路美化活動から始まった地域おこし～廃校グラウンドが環境農園に生まれ変わった！～ www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/pdf/Part30_H27/H27_ippan_15.pdf</p>			

地域活性化策の方針 3-3:「地域住民や観光客に向けた交流施設・食事処の整備」

背景	<p>中浦地区では人口が減少し、地域住民同士の交流が減ってきています。今後地域住民が気軽に交流できるような施設や食事処を整備することで、地域住民が交流する場の創出、更には観光客へ施設の利用を呼び掛けることで、交流人口の増加も期待されます。</p>
中浦地区分科会における検討方針	<p>■ 古民家等を利用した交流施設・食事処の整備</p> <p>古民家等を利用して、地域住民や観光客が交流できるような施設や食事処の整備を検討します。併せて地域住民や観光客の交流が増えるような仕組みを検討することで交流人口の増加も期待できます。</p>

参考資料：雪浦ゲストハウス森田屋・ゆきや

主体	NPO 法人 雪浦あんぱんね	事業名等	—
取り組みの概要	<p>【雪浦ゲストハウス森田屋】</p> <p>森田屋は、昔ながらの土間を入口に1階はオープンカウンターのカフェやイベントスペース、2階にはドミトリーの2部屋と個室1部屋が整備されています。宿泊する人だけではなく、雪浦に住む人たちにも気軽に立ち寄ってほしいとの思いから、1階の16畳のお座敷はカフェとしての利用のほか、縁側をステージにイベントスペースとして利用できます。</p> <p>【ゆきや】</p> <p>ゆきやは、雪浦で生産された新鮮野菜・加工品・手芸品など、「雪浦ブランド」を提供する産直所、カフェ、ギャラリー、情報提供、交流の場などが集まった、新しい「雪浦の集いの場所」です。2階には、ワークショップ、スクール、会議などに使用できるオープンスペース（有料）があります。地域の皆さんの拠り所として、憩いの場作りを目指しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="300 1646 807 1982">  <p style="text-align: center;">雪浦ゲストハウス森田屋</p> </div> <div data-bbox="960 1646 1406 1982">  <p style="text-align: center;">ゆきや</p> </div> </div> <p>出典：ゆきのうら.net http://www.yukinoura.net/</p>		

基本目標：4.みんなで作るさいかい

概要

中浦地区では人口減少・高齢化が進んでいます。今後中浦地区を活性化させていくためには、地域住民の交流機会を設け、更に移住者を増やしていく必要があります。

中浦地区に設定された事業推進エリアは伊佐ノ浦公園の近く位置していることから、今後風力発電施設や伊佐ノ浦公園を利用した新たなイベントを開催することで、地域住民の交流機会の創出や、観光客の増加が期待されます。またイベントや中浦地区のPR 動画等を作成し、その魅力を発信することで、移住者の獲得につながっていくことが期待されます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
4.みんなで作るさいかい	4-1：市民協働のまちづくり	4-1-2：地域における市民活動の支援	4-1-2-4：市民協働による地域の活性化	方針 4-1：中浦地区の魅力を体験するイベントの開催
	4-5：シティプロモーションの強化	4-5-2:各種メディアを活用した情報発信	4-5-2-1：各種メディアを活用した情報発信	方針 4-2：中浦地区プロモーション動画の作成

地域活性化策の方針 4-1: 「中浦の魅力を経験するイベントの開催」

背景

中浦地区に設定された事業推進エリアは伊佐ノ浦公園の近く位置していることから、今後風力発電施設や伊佐ノ浦公園を利用した新たなイベントを開催することで、地域住民の交流機会の創出や、観光客の増加が期待されます。

中浦地区分科会に
おける検討方針

■中浦地区の魅力を経験するイベントの開催

風力発電施設や伊佐ノ浦公園、中浦地区の農産物を楽しめるようなイベントの開催を検討します。検討にあたっては、地域住民同士の交流の場になること、更に観光客等に中浦地区の魅力を経験してもらえるような企画の検討が必要です。

参考資料：郡山布引 風の高原祭り

主体

郡山湖南まつり実行委員会（湖南町商工会）

事業名等

郡山布引 風の高原祭り

郡山市湖南町の布引高原は、「風の高原」と呼ばれています。この高原は、標高約 1,000mあり、布引高原ダイコンの産地として有名で、磐梯山や猪苗代湖が一望できる絶景の地です。

そして、この高原には、高さ 100mもある風力発電が 33 基立ち並び、高原の風を受けてゆっくり回っています。毎年 8 月には風の高原祭りが開催され、5km のひまわりウォーク・大根の収穫体験・布引大声大会・抽選会、石筴ふれあい牧場の移動動物園や、大道芸人によるバルーンパフォーマンスも行われます。

取り組み
の概要



出典：「ぐるっと郡山」 <https://www.gurutto-koriyama.com/>

「布引風の高原」

<https://www.city.koriyama.fukushima.jp/shise/citysales/kankou/nunobikikaze.html>

地域活性化策の方針 4-2: 「中浦地区プロモーション動画の作成」

背景	西海市は移住希望者へ向けたプロモーション動画を作成しています。今後中浦地区においても、移住希望者へ向けた効果的な情報発信を行い、移住者の確保へつなげていく必要があります。
中浦地区分科会に おける検討方針	<p>■プロモーション動画の作成</p> <p>中浦地区の魅力を発信するプロモーション動画の作成を検討します。作成した動画は移住希望者や観光客等へ向けたサイトへの掲載など広く情報を発信することが必要です。</p>

参考資料：全国移住ナビ

主体	総務省	事業名等	—
取り組み の概要	<p>「全国移住ナビ」は、関係省庁と連携し、全国の自治体と共同して構築するもので、居住・就労・生活支援等に係る総合的なワンストップのポータルサイトです。</p> <p>全国移住ナビでは、移住を希望する方へ向けた、都道府県や市町村のプロモーション動画が閲覧できるほか、仕事や住まい、生活環境、移住のテーマ等各テーマにあった移住先を探すことができるようになっています。</p> <p>また実際に移住した方々が、移住のきっかけや移住先での住環境、働き方などを掲載する移住体験談の全国コンテストを開催し、平成27年12月～28年1月の2ヶ月間のアクセス件数の多い体験談の中から、有識者委員に審査いただき、選出された受賞団体に対して、表彰を行っています。</p> <div data-bbox="429 1449 1345 1951" data-label="Image"> </div> <p>出典：「全国移住ナビ」 https://www.iju-navi.soumu.go.jp/ijunavi/</p>		

地域貢献について ～江島地区ワークショップの整理結果～

1) ワークショップ結果の整理について

平成 30 年度第一回江島地区検討会において取り組んだワークショップにおける付箋を、第二次西海市総合計画における基本目標及び政策と照らし合わせ整理した。

2) 地域活性化策の方針について

ワークショップの整理結果から、今後地域活性化に取り組んでいくに当たりどのようなことに取り組んでいくべきかその方針を事務局で検討した。

【留意事項】

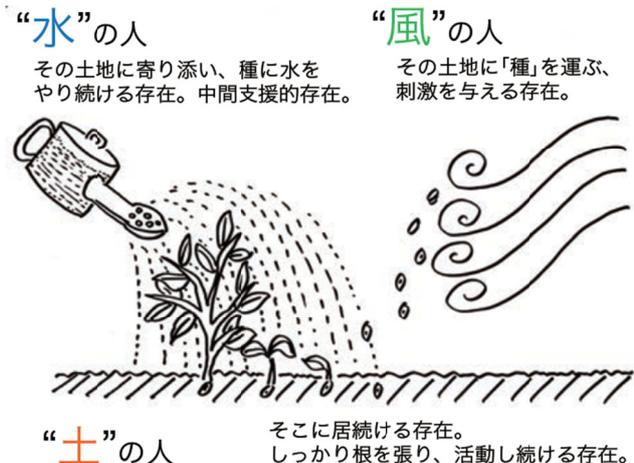
この方針はあくまでもワークショップの意見を整理したものであり、今後風力発電事業者や西海市が取り組むことを決定したものではない。

今回のワークショップの結果を踏まえ、今後どのような地域活性化について取り組んでいくか地区分科会（仮称）の中で地域、風力発電事業者及び西海市が具体的に検討し、取り組んでいく必要がある。今回のワークショップの整理結果はその検討を行うためのベースとなる資料である。

～今後地域活性化に取り組んでいくに当たり～

【各主体の役割について】

地域活性化において「土の人」、「水の人」、「風の人」の役割があるように、各主体ごとにそれぞれの役割がある。



出典：「関西大学 戦略的研究基盤団地再編リーフレット AUGUST 2013 VOL.136 まちづくり+クリエイティブ-市民参加の方法論、風の人からの提言-」
(www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/danchi/136.pdf)



【今後の取組について】

地域活性化を進めるに当たり、様々なことが起こりうると考えられる。各主体がそれぞれの役割を認識・理解し、地区分科会の中でそれぞれの取組内容を協議・共有しながら、最終的目標の達成に向けできることから継続的に取り組んでいくことが大切となる。

江島地区 ワークショップ結果及び今後の方針

ワークショップ意見	第2次西海市総合計画		地域活性化策の方針
	基本目標	基本施策	
小中学校の存続、島外から生徒を呼ぶ 人口を増やしたい、子供の人数を増やす 小中学生の島の体験学習（交流人口増） 小学校—中学校のみならず高校生、大学生が島で勉強できる、一通信制、ネット学校 伝統行事の継承 祭事の協賛、手伝い 行事がにぎやかな島 お祭りをする人手が足りない	生涯にわたり活躍できるひとづくり	生きる力をはぐくむ学校教育の実現	・児童・生徒増加に向けた取り組み 離島留学の実施 ・環境教育における洋上風力発電施設の利用
		地域を支える文化・芸術、スポーツの振興	・祭事の継続的な開催
イノシシによる被害を少なくしたい イノシシがいない島 いのししに荒らされない イノシシがいなくなってほしい 耕作放棄地の改善 羊の放牧ができる 農地を復活させたい つばきの実で事業を行いたい 農地を復活させ、しょう油の原料（麦、大豆）を生産できるようにしたい 休耕田を利用して畑、牛、羊を放牧する、土地があいている、農業（田畑をふやす）、体験施設など 島の産物が開発され、インターネットで飛ぶように売れている将来像 漁業後継者が増える 魚介類が洋上風力と同じぐらい水揚げがある将来 洋上風力と漁業との協調で大成功、日本中から注目 漁業人口の増加 漁業資源を利用し島をPR集客を行い、定住を促進する 漁場、豊かにすべき 漁業者所得の向上 説明では漁業者優先な感じがするが、島民へのフォローがあるのか 魚の生産基地としたい 世界的な海洋風力発電、漁場利用の先進地として研究拠点化したい 漁業の近代化（合理化）を図りたい、他にないもの—イセエビ、サザエ、ウニの蓄養— 風車事業による漁業振興、データ提供、密漁監視、洋上風力発電の島と漁業振興の協調 風車と漁礁の供用 さかなのブランド化 漁業後継者が増える 漁業従業員を増やしていく 風車に釣り場、支柱（プラットフォームを造ってもらい）観光客（釣客）を運ぶ 風車に釣堀イケスを造り、漁業者が魚を入れる、釣客が釣る 定置網の設置 I ターンによる 地元の雇用を増やしてほしい	さいかいで活躍できるしごとづくり	地域の特性を生かした農林業の振興	・耕作放棄地を利用した農産物の栽培
		豊かな海に育まれた水産業の振興	・風力発電施設を利用した漁業協調策の検討

江島地区 ワークショップ結果及び今後の方針

ワークショップ意見	第2次西海市総合計画		地域活性化策の方針
	基本目標	基本施策	
スマートアイランド、島全体オール電化、移動は電気自動車、小型モビリティ	さいかいで活躍できるしごとづくり	魅力ある地域資源を活用した観光業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の整理と今後の活用に向けた整備 ・江島の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成
高速通信			
アクセスが少なすぎる			
本土との人の交流増加			
光ケーブル、H33年4月に供用開始			
島中どこにいてもwi-fiが使える			
名所で何が出来るか何が見えるか、案内板の設置			
レンタル自転車等導入			
島の見学ルートを見直して欲しい			
眺めのいい場所が少ない、雑木の伐採を			
島の自然を生かして来訪者に喜んでもらえる島にしたい			
訪れた人が島の自然を楽しむ為、トイレの設置、島外からのお客さんが宿泊できる施設			
標識がない(地図)			
美しい景観を残したい、観光の目玉としたい			
自然の美しさを残したい			
釣り公園整備			
世界から洋上風力と島の発展状況を見学にくる将来			
島に夕日の映える洋上風力の撮影に沢山の人が訪れる将来			
島の朝日に映える洋上風力の写真撮影に多くの人が訪れている将来像			
風車にライブカメラを設置し、夕日を観賞			
風車見学ツアー、CM、映画、ロケ誘致			
風車を目玉にして、観光客を増加させたい			
世界から洋上風力と島の発展状況を見学にくる将来			
島に夕日の映える洋上風力の撮影に沢山の人が訪れる将来			
島の朝日に映える洋上風力の写真撮影に多くの人が訪れている将来像			
「なにもしない」ために来るようなタイプの観光の島へ			
年間1,200人よべる島			
島への観光客を増やしたい			
映画、ドラマのロケ地として利用してほしい			
島を訪れる人を増やしていく			
江島マラソン大会、音楽フェス			
サザンオールスターズ(江島つながり)に来てもらう			
誰が看板を作るのか費用は誰が			
風力発電業者の方頻りに訪れる			
障害が出た時は、対応していただきたい			
風力発電のくわしいイメージ図			
企業の研修施設の設置	企業誘致等の強化による雇用機会の拡大		

江島地区 ワークショップ結果及び今後の方針					
ワークショップ意見	第2次西海市総合計画		地域活性化策の方針		
	基本目標	基本施策			
避難港としての港の整備	安心して活躍できるまちづくり	安全で災害に強いまちづくり	・防災対応型電源供給システムの導入		
台風被害がひどい					
災害の時、電気や水で困らない					
台風被害がひどい					
災害の時、電気や水で困らない					
休日診療（救急）の対応				安心できる医療・介護・救急体制の充実	・遠隔医療システム等の整備
急病で困る					
住宅の建設		快適な住宅環境づくり			
空屋問題					
空き家（危険）を何とかしたい					
危険な廃屋は撤去できないか					
使える空き家が悪くならないように管理できれば					
危険な廃屋は撤去できないか					
整備道		安全で快適なみちづくり	・快適に利用できるような道路環境の整備		
道がひどすぎる					
ハイキングに危険					
道路が狭い、草が生茂っている					
市道をきれいにしたい、草刈りをしてもらいたい					
ボランティアによる草はらい！、一気にやってしまう					
海岸への続く道のコンクリート化					
道路の法面のコンクリート化					
人がたくさん使う道路					
生活道路以外の農道の整備					
島の道路周辺の見直しが必要（見学できない）					
草刈りがされている					
道路整備する人や予算はあるのか？					
住みやすい、環境づくり、草刈り、ゴミ拾い					
市道を綺麗にしたい、ごみが落ちていないきれいな島					
吉田浜への道路整備をしてほしい					
自動運転、コミュニティバス、（電気自動車）				地域公共交通の整備・充実	・フェリーみしまの運航時刻等の検討
高速交通、ドローン、ヘリコプター					
島外との交通手段					
通院、買い物が不便					
コミュニティバスのなもの					
日帰りできる交通網ができて欲しい					
フェリーの造船の早期実現					
往復 or 双方向 日帰り					
週末だけ（臨時便）西海市など					
官公庁の一体化、フェリーの機能充実					
交通を便利にする、高速船を朝夕2便					
港、漁港の整備、ヘリポートの拡張					
フェリーの他に高速船の増便					
みしま丸の1日2往復の要望					
フェリーの造船の早期実現					
高速艇の運航には時間が相当必要					
船便の利便向上					
人と貨物の運賃の低減化					
コミュニティバスがほしい					
本土に近い、島にしたい					

基本目標：1.生涯にわたり活躍できるひとづくり

概要

江島小中学校では現在4名の児童・生徒が学んでいます。江島小中学校の図書館は島民にも解放され、学校の行事には島民も参加する「コミュニティ・スクール」の1モデルとなっています。洋上風力発電所は全国的にもまだ建設例は少なく、環境教育施設として利用できれば貴重な環境教育の場となることが期待されます。今後江島での教育環境を整え、島外との児童・生徒との交流機会を増やし、江島小中学校を存続させていく必要があります。

地域の伝統行事については、江島くんちが毎年9月（旧暦の8月15日前後）に行われています。島民にとって大切な行事ですが、人口の減少により開催が困難なこともあります。今後風力発電事業者等の協力により定期的な開催へつながっていくことが望まれます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
1：生涯にわたり活躍できるひとづくり	1-5：生きる力をは育む学校教育の実現	1-5-1：能力や個性を伸ばす教育の推進	1-5-1-3：特色ある学校づくりの推進	方針 1-1：児童生徒増加に向けた取り組み 離島留学の実施
		1-5-2：豊かな心の育成とふるさとを学ぶ教育の推進		方針 1-2：環境教育における洋上風力発電施設の利用
	1-9：地域を支える文化・芸術、スポーツの振興	1-9-2：文化財の保存・保護・活用	1-9-2-3：地域伝統文化の継承	方針 1-3：祭事の継続的な開催

地域活性化策の方針 1-1: 「児童生徒増加に向けた取り組み 離島留学の実施」

背景

江島小中学校は平成 29 年に新校舎への建て替えが行われ、図書館は島民へも解放されています。学校行事は「地域みんなで盛り上げる・楽しむイベント」となっており、島民が係わる「島の子育て」方法は、社会的に注目されている「コミュニティ・スクール」の 1 モデルとなっています。島民の方にとっても大切な江島小中学校ですが、平成 30 年度時点で児童 3 名、生徒 1 名となっており、今後児童・生徒を増やし江島小中学校を存続させていく必要があります。



新校舎落成式の様子



「餅まき」セレモニーの様子



教室の様子

出典：「Saikai ブログ」<http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/>

江島地区分科会
における検討方針

■ 離島留学の実施

島外からの児童・生徒が増えるような離島留学を検討します。

参考資料：長崎県五島市 「しま留学」

主体	長崎県五島市	事業名等	しま留学
取り組みの概要	<p>長崎県五島市では「五島市立久賀小中学校」「五島市立奈留小中学校」に転学を希望する児童や生徒へ、久賀島・奈留島内の受入れ保護者（以下「しま親」という。）の協力を得て受入れを実施し、豊かな自然の中で様々な体験活動を通して心身共に健康な児童・生徒の育成を図ることを目的とした「しま留学」を行っています。「しま留学」制度では児童・生徒の受け入れに当たり、募集基準や留学期間、留学に係る費用、しま親に関する事項、解約等が定められています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>出典：「五島市しま留学」http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/special/index221.php</p>		

地域活性化策の方針 1-2: 「環境教育における洋上風力発電施設の利用」

背景

西海市では市内の小中学生を対象とし、風力発電施設の見学といった環境学習が行われています。洋上風力発電施設群は全国的にも設置例が少なく、今後貴重な環境学習施設として利用されることが期待されます。



北九州市における風力発電施設見学の様子



松島における風力発電機見学の様子

出典：「Saikai ブログ」 <http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/>

江島地区分科会
における検討方針

■環境教育における洋上風力発電施設の利用

洋上風力発電施設を利用した環境教育の実施を検討します。環境教育においては、船舶からの見学だけでなく、風力発電機内部や水中ドローンを用いた基礎部の見学等を検討し、江島だからこそ受けられるような環境教育の仕組みの検討が必要です。

参考資料：平成 29 年度 西海市風力発電導入に向けた地域検討会における
崎山沖 2MW 浮体式洋上風力発電施設の見学

主体	西海市	事業名等	平成 29 年度 西海市風力発電導入に向けた地域検討会
取り組み の 概要	<p>「西海市風力発電導入に向けた地域検討会」では平成 29 年度に長崎県五島市にある崎山沖 2MW 浮体式洋上風力発電施設の見学を行いました。船舶から浮体式洋上風力発電施設の見学を行ったほか、ROV (Remotely Operated Vehicle) ※を用いた基礎部の見学や水素燃料電池船、崎山漁港周辺に設置されている藻場礁の見学を行いました。</p> <p>※ROV：遠隔操作が可能な無人の潜水機</p>		
	浮体式洋上風力発電施設 見学の様子	ROV 投入時の様子	水素燃料電池船見学の様子

地域活性化策の方針 1-3: 「祭事の継続的な開催」

背景

江島地区では江島くんちが毎年 9 月（旧暦の 8 月 15 日前後）に行われています。島民の方にとって大切な行事ですが、人口の減少に伴い、開催が困難なことがあります。今後移住者の増加や島外からの協力者を増やしていくことで定期的な開催が望めます。



江島くんちの様子

出典:「青いぜ！長崎ブルーアイランドプロジェクト」<http://nagasakiblueislands.jp/index.html>

江島地区分科会
における検討方針

- 風力発電事業者等島外からの参加者増加に向けた取り組み
風力発電事業者等島外からの参加者が増えるような取り組みを検討します。これにより継続的な祭事の開催や、島への理解促進を図ります。

参考資料：事業者による祭事への参加

主体	ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社	事業名等	—
取り組みの概要	<p>ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社では風力発電事業を行っている場所の祭事へ参加し、地域の方との交流を深めています。</p> <p>【軽米秋祭り】 風力発電所の計画を進めている岩手県九戸郡軽米町で開催された「軽米秋祭り」に、社員 6 人が参加しました。祭りでは町内会の皆様と共に 5 時間かけて山車を曳き、道中、地元の中学生とお囃子に合わせて小踊りを踊るなど、地域の皆様との交流を深めました。</p> <p>【キリコ祭り】 石川県志賀町で建設中の JRE 志賀西海風力発電所の地元である千浦地区のキリコ祭りに、当社社員 4 名が参加しました。キリコとは巨大な切り灯籠のことで、祭りではキリコと神輿がぶつかり合います。この場所でしか味わえない貴重な体験ができ、地域への理解をより深めることができました。</p> <p>出典:「地域と社会への貢献」http://www.jre.co.jp/community/event.html</p>		 

基本目標：2.さいかいで活躍できるしごとづくり

概要

江島はかつて「農業の島」と言われるほど農業が盛んでしたが、現在は人口の減少により手入れがされず、耕作放棄地となっている場所が多くあります。今後耕作放棄地を活用し農作物の栽培や家畜の放牧等を行うことで、新たな働く場の形成につながることが期待されます。

漁業については、イセエビ等の水産資源が豊富であり、江島の主要な産業となっています。今後洋上風力発電事業による漁業協調策により、漁獲量の増加や新たな漁場の形成が期待されます。

また観光については、碁石ヶ浜や星空等の観光資源が存在しますが、整備されておらず利用が難しい場所があり、また観光情報の発信も少ない状況です。今後観光資源の整備や情報の発信、さらに洋上風力発電施設の観光利用等により観光客が増加することが期待されます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針	
基本目標	基本施策	施策	細施策		
2：さいかいで活躍できるしごとづくり	2-1：地域の特性を生かした農林業の振興	2-1-6：耕作放棄地の解消、利活用	2-1-6-2：耕作放棄地の再生支援	方針 2-1：耕作放棄地を利用した農産物の栽培	
	2-2：豊かな海に恵まれた水産業の振興	2-2-2：浜の活性化と就業者の確保・育成	2-2-2-4：異業種との連携強化などによる浜の活性化	方針 2-2：風力発電施設を利用した漁業協調策の検討 釣客増加への取り組み 方針 2-3：「風力発電施設を利用した漁業協調策の検討 漁獲量増加等への取り組み」	
	2-4：魅力ある地域資源を活用した観光業の振興	2-4-1：地域資源を活かした観光資源の発掘	2-4-1-1：新しい観光資源の発掘・活用		方針 2-4：観光資源の整理と今後の活用に向けた整備
		2-4-3：観光受入体制の充実と認知度アップ	2-4-3-3：ガイドやインストラクターなどの人材育成とネットワーク化の推進		方針 2-5：江島の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成

地域活性化策の方針 2-1: 「耕作放棄地を利用した農産物の栽培」

背景

江島はかつて水田や畑が整備され農業が盛んな島でしたが、人口の減少とともに手入れがされなくなり、現在では多くの場所が耕作放棄地となっています。今後こういった土地を活用し農作物の栽培や家畜の放牧等を行うことで、新たな働く場の形成につながることを期待されます。



江島における耕作放棄地の状況

江島地区分科会における検討方針

■耕作放棄地を利用した農作物の栽培や家畜の放牧

耕作放棄地を利用した農作物の栽培や家畜の放牧を検討します。栽培する農作物については、かつて江島で栽培されていた農作物、江島しょうゆの原材料となるような農作物の栽培や、高付加価値のある農産物の栽培など検討が必要です。

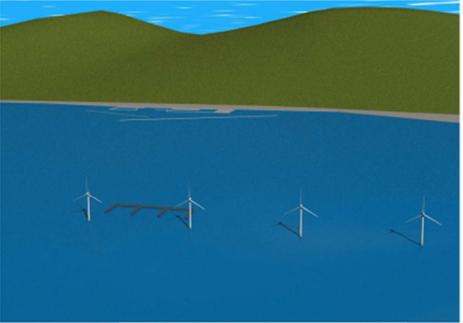
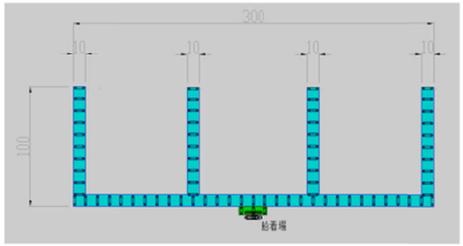
参考資料：江島 さとや

主体	江島 さとや	事業名等	—
<p>取り組みの概要</p>	<p>江島さとやは長崎県グリーンツーリズム団体『さいかい元気村』に所属する正式な「民泊」の施設です。江島さとやは耕作放棄地を開墾し、ブルーベリー農園や江島牧場を整備しています。江島牧場では羊の放牧を行っており、春の毛刈り体験や羊毛を使っての手紡ぎ、手織り体験等年中楽しむことができます。</p> <p>また島の特性を活かし、海水浴や釣り、磯遊び等海辺での生活を体験するブルーツーリズムや、流木・貝殻のアート体験、江島ネイチャー体験、季節のジャムづくり体験等の体験メニューがあり、様々な活動が行えます。</p>		
	<p>江島さとや</p>	<p>江島牧場でのひつじの放牧</p>	<p>ブルーベリー農場見学の様子</p>
	<p>出典：「江島さとや」 https://www.enoshimasatoya.com/plan</p>		

地域活性化策の方針 2-2: 「風力発電施設を利用した漁業協調策の検討 釣客増加への取り組み」

背景	<p>「洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）」（一般社団法人海洋産業研究会、平成27年6月）では洋上風力発電所のレジャー施設の利用方法の一つとして、洋上デッキの併設や沿岸部への海釣り公園の設置が挙げられています。江島ではすでに多くの釣客が堤防や瀬で釣りを楽しんでいます。今後沖合に建設される洋上風力発電所を釣場として利用することで、さらなる釣客の来島が期待されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">江島の周辺にある瀬の状況</p>
おける検討方針	<p>江島地区分科会に</p> <p>■洋上風力発電機の利用や栈橋設置等による遊漁海域の新設</p> <p>洋上風力発電機の蜻集効果や栈橋設置等による、遊漁海域新設の可能性を検討など釣り客が増えるような取組を検討します。</p>

参考資料：洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版） レジャー施設の併用

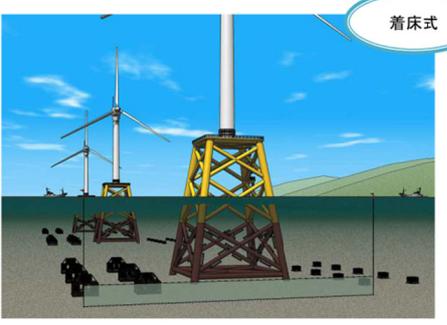
主体	一般社団法人 海洋産業研究会	事業名等	洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）
取り組みの概要	<p>着床式風車群の設置海域を遊漁を行う海域とし、同海域の一角に洋上デッキを併設して海釣り公園を整備することが考えられます。</p> <p>特徴としては、地元漁業者とメリット共有関係をきづくことで円滑に事業を推進できるほか、海洋観光のスポット（例：遊覧船などによるエコツアーリズム等）として地域社会の活性化に貢献できます。</p> <p>ただし、沖合設置の場合は漁船による瀬渡しなど、アクセス方法の確保が課題となるほか、荒天時の使用禁止等、安全対策や事故防止対策が課題となります。また風車基礎や漁礁へアクセスする場合は、係船設備が必要となります。</p> <p>出典：「洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）」（一般社団法人 海洋産業研究会）</p>		  <p style="text-align: center;">着床式ウィンドファームの風車群のそばに沖合設置する洋上デッキ式海釣り公園のイメージ</p>

地域活性化策の方針 2-3:

「風力発電施設を利用した漁業協調策の検討 漁獲量増加等への取り組み」

背景	<p>「洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）」（一般社団法人海洋産業研究会、平成27年6月）では洋上風力発電事業における漁業協調策の一つとして、風車基礎部の人工漁礁化利用が挙げられています。江島では伊勢海老等の水産資源が豊富ですが、今後洋上風力発電事業の実施による漁業協調策により漁獲量の増加や新たな漁場の形成が期待されます。</p>
おける検討方針	<p>江島地区分科会に</p> <p>■ 洋上風力発電施設を利用した水産資源の増加や漁場形成につながる取り組み</p> <p>洋上風力発電機の基礎部の人工漁礁としての利用や漁業操業制限区域の設定によるしみだし効果による漁獲量の増加といった、水産資源の増加や漁場形成につながる取り組みを検討します。</p>

参考資料：洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）
風車基礎部の人工漁礁化利用

主体	一般社団法人 海洋産業研究会	事業名等	洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）
取り組みの概要	<p>【資源保護育成目的】</p> <p>ウィンドファーム内を積極的に漁業操業制限区域（水産資源の保護水面、禁漁区）として設定します。この場合、ウィンドファーム内において漁業はできなくなりますが、区域内を水産資源の育成のための海域と位置づけ、人工魚礁等の設置により資源培養効果の向上を図ります。これにより、漁業操業制限区域内で増殖した水産資源が周辺海域に湧きだしていき、「しみだし効果」（スピルオーバー効果）により、ウィンドファームの外縁海域での漁場形成、漁獲量増加が期待できます。</p> <p>【周辺での漁業操業目的】</p> <p>着床式洋上風車の支柱や基礎部に集魚効果のある部材を取り付けたり、周辺に人工魚礁等を配置したりすることにより、水産資源の蜻集による漁獲量の増加を図ります。</p> <p>これにより、これまで漁場として良好とは言えなかった海域にウィンドファームを立地することにより、ウィンドファーム海域内やその周辺海域の比較的近い海域が新たな漁場となる可能性があり、漁船の燃費節減や漁業操業パターンの向上、安定化などに寄与できます。</p> <p>出典：「洋上風力発電等の漁業協調の在り方に関する提言（第2版）」（一般社団法人 海洋産業研究会）</p>		
			
<p>着床式洋上ウィンドファーム内での資源育成用魚礁設置のイメージ</p>			
			
<p>着床式洋上ウィンドファーム周辺で漁業操業用の魚礁を設置するイメージ</p>			

地域活性化策の方針 2-4: 「観光資源の整理と今後の活用に向けた整備」

背景	<p>江島には碁石ヶ浜などの観光資源が存在します。また九州本土や五島列島と距離があり、光害の影響を受けにくいいため、星空の観察にも適しています。ただし、吉田の浜や遠見岳など手入れがあまりされておらず、到達が困難な場所も存在します。今後観光資源を整理し、島外に向けた情報発信を行う事で、観光客の誘致につながる事が期待されます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
おける検討方針 江島地区分科会に	<p>■観光資源の整理と利用に向けた到達経路等の整備</p> <p>江島に存在する観光資源の整理と、今後利用していくための到達経路等の整備に向けた取り組みを検討します。</p>

参考資料：環境美化を考える会

主体	環境美化を考える会	事業名等	みんなのふるさとふれあい事業
取り組みの概要	<p>環境美化を考える会が行う活動は、大島大橋を含む大島の地域全体を社会資本のフィールドとして捉え、道路の美化活動を行うとともに、廃校になった小学校のグラウンドを開墾して農園（草木等最終処理場）として再利用することで環境学習や食育等の啓発などの活動の拠点としています。</p> <p>平成 11 年の大島大橋の開通を契機に、除草や植栽などの道路美化活動を開始しました。また、小中学校と連携した総合学習（野菜の土づくり、育てる、調理までの食育）を平成 16 年より毎年実施するとともに、植栽用の花苗については道守・日本風景街道の団体を通じて他の地域でも植栽に利用されるなど、活動が地域に広がりを見せています。また、大島のイラストマップを自ら企画・製作し、島内の民宿や観光等施設に設置するなど、地域全体の観光振興にも寄与しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>出典：道路美化活動から始まった地域おこし～廃校グラウンドが環境農園に生まれ変わった！～ www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/pdf/Part30_H27/H27_ippan_15.pdf</p>		

地域活性化策の方針 2-5： 「江島の魅力を体験するツアーの実施やガイドの養成」

背景

江島には碁石ヶ浜や海中景観、星空といった観光資源が豊富に存在しています。また今後洋上風力発電施設が実現すれば新たな観光資源として利用されることも期待されます。今後これらの資源を案内するガイドを養成し、様々なツアーを実施していくことで、交流人口の増加につながっていくことが期待されます。



江島地区分科会に
おける検討方針

■ 地域資源を利用したツアーの実施及びガイドの養成

江島の地域資源を活用したツアーの実施やガイドの養成を検討します。ツアーの検討においては江島の観光資源を巡るだけでなく、島民との交流の場が設けられるような内容の検討が必要です。

参考資料：地域資源を活かした体験型観光の推進

主体	NPO 法人 体験村・たのはたネットワーク	事業名等	—
<p>取り組みの概要</p>	<p>NPO 法人 体験村・たのはたネットワークでは地域資源を活用した「サッパ船アドベンチャーズ」、「北山崎ネイチャートレッキングガイド」、住民講師による「ガラス浮き球編込み体験」「貝殻アート」「番屋料理体験」等の漁村地域の資源を活用した体験プログラムを提供しています。</p> <p>住民ガイドは体験プログラムの収益のうち 4～7 割を得る仕組みとなっており、宿泊施設や民泊への新たな顧客を創出しています。</p> <p>事業推進のための体制として、漁協、農協、森林組合、商工会、宿泊施設関係者等が参画する NPO 法人が、体験型観光を推進しています。NPO 法人の設立、運営までを村が主導し、他県で体験型観光の取組経験のある行政経験者や島への移住者等、多様なバックグラウンドを持つメンバーが NPO 法人に参加しています。</p>		 
	<p>出典：「離島振興のあり方検討委員会 第 2 回 資料 2 光・海業分野の先進的・効果的な取組事例の調査結果」 http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/meeting_H27</p>		

基本目標：3.安心して活躍できるまちづくり

概要

江島は離島という環境から、台風等の自然災害により生活の制限を受けやすい状況にあります。今後島民がより安心して生活するため、また移住者や観光客を増やしていくためにも、医療や防災面の整備が望まれます。

また定期船を利用する来島者は必ず江島に宿泊することになりますが、宿泊施設や食事処は限られています。今後観光客等に向けた宿泊や食事ができる施設、特に食事処については島民も気軽に利用できるような施設の整備が望まれます。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
3.安心して活躍できるまちづくり	3-1：安全 で災害に強 いまちづく り	3-1-4：自然災害に強 いまちの基盤づくり	3-1-4-2：自然災害に強いま ちの基盤づくり	方針 3-1：防災対応型電源供給シ ステムの導入
	3-2：安心 できる医 療・介護・ 救急体制の 充実	3-2-3：救急医療体制 の充実	3-2-3-1：救急医療体制の構 築	方針 3-2：遠隔医療システム等の 整備
	3-5：安全 で快適なみ ちづくり	3-5-3：市民と一体と なった快適で安全な 道路環境づくり	3-5-3-1：市民参加による道 路環境づくり	方針 3-3：快適に利用できるよう な道路環境の整備
	3-6：地域 公共交通の 整備・充実	3-6-2：海上交通の充 実	3-6-2：離島航路の支援	方針 3-4：フェリーみしまの運航 時刻等の検討
	3-11：地域 の交流拠点 づくり	3-11-1：地域コミュ ニティ施設等の整備	3-11-1-1：集会所の整備	方針 3-5：島民や観光客に向けた 宿泊施設・食事処の整備

地域活性化策の方針 3-1: 「防災対応型電源供給システムの導入」

背景

江島には、急傾斜地崩壊（がけ崩れ）危険箇所や地すべり危険箇所が指定されている場所があります。災害時に安心して避難できる施設等の整備が望まれます。



江島地区分科会における検討方針

■ 防災対応型電源供給システム等の整備

災害時における自立的な電源確保のため、防災対応型電源供給システム等の整備を検討します。

参考資料：指定避難所等への防災対応型太陽光発電システム等の導入

主体	仙台市	事業名等	—
----	-----	------	---

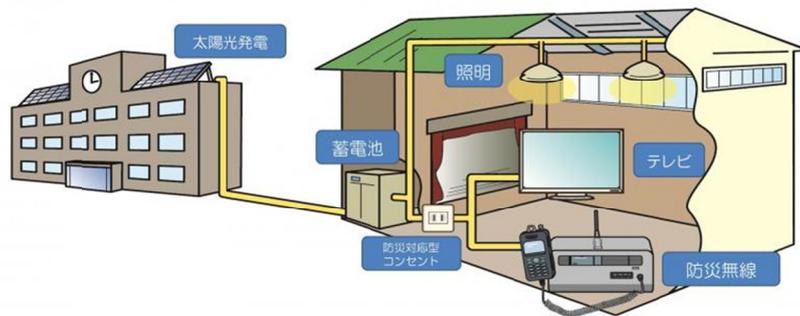
東日本大震災では、電気・ガス・ガソリン等の供給が途絶し、避難所運営などの初期対応においてさまざまな不都合が生じました。こうした経験を踏まえ、災害時における自立的な電源を確保するとともに、平常時の二酸化炭素排出量の削減を図るため、市内の指定避難所等 196ヶ所に太陽光発電と蓄電池を組み合わせた防災対応型太陽光発電システムを導入しました。

長期間の停電が発生しても、太陽光発電と蓄電池を組み合わせることによって、天候に左右されず、昼夜を問わず防災無線やテレビなどの情報通信機器、照明、コンセント等が使用できます。

【主なシステム構成】

- ・ 太陽光発電（10kW） / 蓄電池（15kWh） / 防災系高所証明（2灯） / 防災系コンセント（3箇所程度）

取り組みの概要



防災太陽光発電システムイメージ図

出典：「指定避難所等への防災対応型太陽光発電システム等の導入」

<https://www.city.sendai.jp/kankyo/kurashi/machi/machizukuri/energy/hinanzypv/index.html>

地域活性化策の方針 3-2: 「遠隔医療システム等の整備」

背景	<p>江島には江島診療所がありますが、離島という環境もあり、診療日や診療科が限られている状況です。今後島でのより安心した生活を送るためにも、また移住者や観光客を増やしていくためにも医療環境の整備が期待されます。</p>
江島地区分科会 における検討方針	<p>■ 遠隔医療システム等の整備</p> <p>急患への 24 時間対応や休日、夜間等の対応の一環として、遠隔医療システム等の実現を検討します。</p>

参考資料：TV 電話診療を用いた遠隔医療システム等の整備

主体	新潟県粟島浦村	事業名等	
取り組みの概要	<p>国の遠隔医療に対する事業の推進を活用し、本土の病院の協力体制のもと、TV 電話診療と医療機器を導入し、遠隔医療システムを整備しています。また定期的な出張診療や歯科診療の実施、緊急医療対応等、島での医療環境の総合的な整備を推進しています。</p> <p>【具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師が不在の診療所で週 2 回、TV 電話による遠隔診療を平成 12 年度から実施しています。島の診療所の看護師が仲介となり、本土の診療所の医師が患者の診察を行います。 ・ 看護師は 2 名体制であり、1 人が U ターン者、1 人が I ターン者です。 ・ 毎年 7 月～8 月の観光シーズンには観光客の治療対応も必要となることあるため、毎週日曜日に出張診療を実施しています。また毎年 3 月～11 月の毎週金曜日に、本土の大学病院の歯科医師と民間の歯科衛生士が 1 泊 2 日で島に来て歯科診療を実施しています。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="448 1664 858 1928" style="text-align: center;">  <p>TV 診療の様子（粟島）</p> </div> <div data-bbox="1027 1659 1257 1924" style="text-align: center;">  <p>TV 診療の様子（本土）</p> </div> </div> <p>出典：「第 3 回 離島振興の在り方検討委員会 資料 3 医療分野の離島振興の在り方について」 http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chirit/meeting_H27</p>		

地域活性化策の方針 3-3: 「快適に利用できるような道路環境の整備」

背景

江島の道路には、手入れがされておらず通行に支障が生じたり、景観が悪くなっている場所があります。また吉田の浜や遠見岳といった観光資源としての活用が期待される場所において到達経路が整備されていない場所があります。



吉田の浜への到達経路の状況

おける検討方針

江島地区分科会に

■道路環境の整備

定期的な草刈り等による道路環境の整備を検討します。実施する際は風力発電事業者の参加を促すなど、地域住民との円満な関係構築を図ります。また整備を行う道路については、島民が普段利用する道路や、吉田の浜等到達が困難な場所への到達経路の整備について検討します。

参考資料：環境美化を考える会

主体	環境美化を考える会	事業名等	みんなのふるさとふれあい事業
取り組みの概要	<p>環境美化を考える会は、道路の美化活動を行うとともに、廃校になった小学校のグラウンドを開墾して農園（草木等最終処理場）として再利用することで環境学習や食育等の啓発などの活動の拠点としています。除草後の草木処理については、活動の自己完結型を模索し、除草で発生した草木をEM堆肥化させ、種まき、栽培し、道路植栽に活用するなど循環型の仕組みを構築しています。</p> <p>また、小中学校と連携した総合学習（野菜の土づくり、育てる、調理までの食育）を平成16年より毎年実施するとともに、植栽用の花苗については道守・日本風景街道の団体を通じて他の地域でも植栽に利用されるなど、活動が地域に広がりを見せています。</p> <p>道路美化活動は、平成11年より月1回のペースで行われ、20代から70代までの幅広い世代が参加しています。また、平成16年より、小中学校（9校）の総合学習枠で環境・食育指導を、1校につき年6回開催し、地域の教育現場と連携した取り組みが継続的に行われています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>出典：道路美化活動から始まった地域おこし～廃校グラウンドが環境農園に生まれ変わった！～ www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/pdf/Part30_H27/H27_ippan_15.pdf</p>		

地域活性化策 3-4: 「フェリーみしまの運航時刻等の検討」

背景

定期船であるフェリーみしまは、新上五島の友住港と佐世保港を結ぶ航路を、新上五島側から 1 日 1 往復の運航であるため、佐世保又は崎戸から江島を訪れる場合、江島に宿泊する必要があります。今後島民の生活の利便性を向上するため、また来島者を増やすためにもフェリーみしまの航路時刻等の検討が望まれます。


 江島地区分科会に
 おける検討方針

■フェリーみしまの航路時刻等の検討

フェリーみしまの航路時刻等を検討します。ただし、航路時刻などの変更にあたっては、江島だけでなく、平島などの関係地域の合意が得られることが前提であることを踏まえ検討を行います。

地域活性化策 3-4: 「島民や観光客等に向けた宿泊施設・食事処の整備」

背景

江島の宿泊場所や食事処は限られており、多くの観光客を一度に受け入れることは難しい状況です。今後宿泊施設や食事処の整備を進め観光客などの受け入れ体制を整備するとともに、島民同士や島民と観光客等が交流できるような施設の整備が期待されます。



江島さとや

出典：「江島さとや」 <https://www.enoshimasatoya.com/plan>

会
に
お
け
る
検
討
方
針

■空家等を利用した宿泊施設や食事処の整備

空家等を利用した宿泊施設や食事処の整備を検討します。施設を整備するに当たっては宿泊するだけでなく、島民同士、また島民と観光客が交流でき、気軽に利用できるような施設の検討が必要です。

参考資料：雪浦ゲストハウス森田屋・ゆきや

主体	NPO 法人 雪浦あんぱんね	事業名等	—
<p>取り組みの概要</p>	<p>【雪浦ゲストハウス森田屋】</p> <p>森田屋は、昔ながらの土間を入口に1階はオープンカウンターのカフェやイベントスペース、2階にはドミトリーの2部屋と個室1部屋が整備されています。宿泊する人だけでなく、雪浦に住む人たちにも気軽に立ち寄ってもらいたいとの思いから、1階の16畳のお座敷はカフェとしての利用のほか、縁側をステージにイベントスペースとして利用できます。</p> <p>【ゆきや】</p> <p>ゆきやは、雪浦で生産された新鮮野菜・加工品・手芸品など、「雪浦ブランド」を提供する産直所、カフェ、ギャラリー、情報提供、交流の場などが集まった、新しい「雪浦の集いの場所」です。2階には、ワークショップ、スクール、会議などに使用できるオープンスペース（有料）があります。地域の皆さんの拠り所として、憩いの場作りを目指しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="383 1702 842 2011"> <p style="text-align: center;">雪浦ゲストハウス森田屋</p> </div> <div data-bbox="981 1702 1385 2011"> <p style="text-align: center;">ゆきや</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">出典：ゆきのうら.net http://www.yukinoura.net/</p>		

基本目標：4.みんなで作るさいかい

概要

江島は人口が減少し続けており、高齢化が進んでいます。また江島小中学校の児童・生徒は現在4名であり、継続的に学校を存続させていく必要があります。今後島を活性化させ、学校を存続させていくためにも、子育て世代や若い世代の移住を増やしていく必要があります。

そのためにもUIターンを希望する方へ向けたイベントへの参加や、島外の方が参加できるようなイベントの開催により、まずは江島の魅力を多くの方に知っていただき、将来的には移住者や島を訪れる人を増やしていく必要があります。

西海市総合計画における施策と地域活性化策の位置づけ

西海市総合計画				地域活性化策の方針
基本目標	基本施策	施策	細施策	
4.みんなで作るさいかい	4-1：市民協働のまちづくり	4-1-2：地域における市民活動の支援	4-1-2-2:市民リーダーの育成・支援	方針 4-1: アイランダー等移住希望者へ向けたイベントへの参加
			4-1-2-4:市民協働による地域の活性化	方針 4-2: 江島の魅力を体験するイベントの開催
	4-5：シティプロモーションの強化	4-5-2:各種メディアを活用した情報発信	4-5-2-1:各種メディアを活用した情報発信	方針 4-3: 江島プロモーション動画の作成

方針 4-1: 「アイランダー等移住希望者へ向けたイベントへの参加」

背景	<p>江島は人口が減少し続けており、高齢化が進んでいます。また江島小中学校の児童・生徒は現在4名であり、学校を存続させていくためにも、また活性化を進めるためにも特に子育て世代や若い世代の移住を増やしていく必要があります。</p>
江島地区分科会 における検討方針	<p>■アイランダー等移住希望者へ向けたイベントへの参加</p> <p>アイランダー等移住希望者へ向けたイベントへの参加を検討します。参加にあたっては、島の水産物や農産物、特産品、観光資源等の情報発信を行い、江島の魅力を知ってもらえるような活動の検討が必要です。</p>

参考資料：全国の島々が集まる祭典アイランダー

主体	国土交通省 ・ 公益財団法人 日本離島センター	事業名等	—
取り組みの概要	<p>島は日本の領域や排他的経済水域を守るという国家的役割と、食料の供給や癒しの空間の提供といった国民的役割を担っています。こうした重要な役割を持つ島々ですが、年々人口が減少し、少子・高齢化が進むなど、島の存続にとって、厳しい状況が続いています。しかし、近年では漁業や農業に関心を持つ人々や、島の持つすばらしい自然や独自の歴史・文化に惹かれる人々も増えています。</p> <p>アイランダーでは、島の魅力や求人情報などを幅広くPRし、また島の芸能などを体験することで、島で働き、島で暮らすきっかけづくりを行っています。</p>		



出典：「全国の島々が集まる祭典アイランダー2018」 <http://www.i-lander.com/2018/index.html>

方針 4-2：「江島の魅力を体験するイベントの開催」

背景	<p>江島では島外の方を島に誘致するようなイベントは開催されておらず、島外の方が島民と交流する機会や江島の魅力を体験する機会がありません。</p> <p>今後洋上風力発電施設等を利用した企画や、江島の水産物・農産物を販売するイベントを行うことで、島民と島外の方との交流機会をつくり、多くの方に江島の魅力を体験してもらうことで、将来的に移住者や島を訪れる人が増えていくことが望めます。</p>
江島地区分科会 における検討方針	<p>■島の魅力を体験するイベントの開催</p> <p>洋上風力発電施設や島の自然、島の水産物・農産物を楽しめるようなイベントを検討します。</p>

参考資料：郡山布引 風の高原祭り

主体	郡山湖南まつり実行委員会（湖南町商工会）	事業名等	郡山布引 風の高原祭り
取り組みの概要	<p>郡山市湖南町の布引高原は、「風の高原」と呼ばれています。この高原は、標高約 1,000mあり、布引高原ダイコンの産地として有名で、磐梯山や猪苗代湖が一望できる絶景の地です。そして、この高原には、高さ 100mもある風力発電が 33 基立ち並び、高原の風を受けてゆっくり回っています。毎年 8 月には風の高原祭りが開催され、5km のひまわりウォーク・大根の収穫体験・布引大声大会・抽選会、石筴ふれあい牧場の移動動物園や、大道芸人によるバルーンパフォーマンスも行われます。</p>  <p>出典：「ぐるっと郡山」 https://www.gurutto-koriyama.com/</p>		

方針 4-3: 「江島プロモーション動画の作成」

背景	<p>江島への移住者を増やしていくためには、移住希望者へ向けた情報発信をしていく必要があります。西海市では移住希望者へ向けたプロモーション動画を作成しサイトで公開していますが、今後このようなプロモーション動画を江島でも作成することで、移住希望者への効果的な PR につながることを期待されます。</p>
江島地区分科会 における検討方針	<p>■プロモーション動画の作成</p> <p>江島を対象としたプロモーション動画の作成を検討します。作成した動画は移住希望者や観光客等へ向けたサイトへの掲載など広く情報を発信することが必要です。</p>

参考資料：全国移住ナビ

主体	総務省	事業名等	—
取り組みの概要	<p>「全国移住ナビ」は、関係省庁と連携し、全国の自治体と共同して構築するもので、居住・就労・生活支援等に係る総合的なワンストップのポータルサイトです。全国移住ナビでは、移住を希望する方へ向けた、都道府県や市町村のプロモーション動画が閲覧できるほか、仕事や住まい、生活環境、移住のテーマ等各テーマにあった移住先を探すことが出来るようになっています。</p> <p>また実際に移住した方々が、移住のきっかけや移住先での住環境、働き方などを掲載する移住体験談の全国コンテストを開催し、平成27年12月～28年1月の2ヶ月間のアクセス件数の多い体験談の中から、有識者委員に審査いただき、選出された受賞団体に対して、表彰を行っています。</p> <div data-bbox="497 1509 1321 1962" data-label="Image"> </div> <p>出典：「全国移住ナビ」 https://www.iju-navi.soumu.go.jp/ijunavi/</p>		

第二回中浦地区・江島地区検討会について

資料8

○地域検討会の目標「環境保全」、「地域貢献」、「合意形成」のうち、主に「地域貢献」に関する取り組みを予定しています。

※「環境保全」、「合意形成」についてもご意見を伺います。

1) 内容の整理

ワークショップの整理結果について、「背景」及び「地区分科会における検討方針」について検討を行い、内容を整理します。

2) 優先順位等の整理

ワークショップの整理結果について、優先順位の整理を行います。

地域活性化策の方針 1-1: 「児童生徒増加に向けた取り組み 離島留学の実施」

江島小中学校は平成 29 年に新校舎への建て替えが行われ、図書館は島民へも開放されています。学校行事は「地域みんなで盛り上げる・楽しむイベント」となっており、島民が係わる「島の子育て」方法は、社会的に注目されている「コミュニティ・スクール」の1モデルとなっています。島民の方にとっても大切な江島小中学校ですが、平成 30 年度時点で児童 3 名、生徒 1 名となっており、今後児童・生徒を増やし江島小中学校を存続させていく必要があります。



新校舎落成式の様子 「餅まき」セレモニーの様子 教室の様子

出典: 「Saikai ブログ」 <http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/blog/>

江島地区分科会における検討方針

■離島留学の実施
島外からの児童・生徒が増えるような離島留学の実施を検討します。

次回個別検討会で詳しく検討
※テーマごとの、背景や方針に関するご意見を伺いたいと考えています。
関連する資料や写真等ございましたら次回個別検討会の際ご持参ください。

今後の取り組みについて

資料8

工 種	平成30年度																																
	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21			
合同検討会																																	
勉強会																																	
江島地区・中浦地区検討会																																	
現地調査(景観調査・水中撮影)																																	
風力発電先進地への視察																																	

— 実施済 — 開催予定

○平成30年度第二回中浦地区・江島地区検討会 (平成30年11月下旬～12月上旬頃を予定)

- ・ワークショップ結果の整理
- ・環境保全、合意形成に関する内容の確認

○平成30年度第三回合同検討会 (平成31年1月中旬～下旬頃を予定)

- ・最終結果の確認
- ・勉強会の開催

※今後の予定は変更の可能性がございます。